

現代フランス語における点括相の 受動的代名動詞について¹⁾

松 本 卓 也

1. はじめに

点括相に置かれた受動的代名動詞について、先行研究に於いてその存在が指摘されつつも詳細な分析が行われてこなかった。従って本研究の目的は、受動的代名動詞が用いられる場合をより明確し、迂言的受動文との違いを明らかにすることである。

現代フランス語における代名動詞は学校文法に於いて、伝統的に再帰的・相互的・受動的・本質的の4用法に分類されてきたが、RUWET (1972) が提唱して以来、自動詞の用法（に相当する用法）を新たに想定した分析が研究者の間では盛んに行われてきた。以下に受動的・自動詞の用法の特徴を、どの研究者にも比較的共通するものに限りまとめる。

先ず両用法に共通する事柄として、主語は対応する他動詞構文の直接目的補語に相当し、多くは被動作主 (patient) の意味役割を持つ。

- (1) On lit ce livre facilement. (井口 2003a : p. 11)
- (2) Ce livre *se lit* facilement. [受動的用法] (id.)
- (3) On brise le verre. (id.)
- (4) Le verre *se brise*. [自動詞的用法] (id.)

受動的用法が表わす内容は春木 (2010c : pp. 66-67) によると以下の3例のような事象とされている。

- (5) Ce roman *se lit* facilement. [可能モダリティー] (春木 2010c : p. 66)
- (6) Le vin rouge *se boit* chambré. [規範モダリティー] (id.)

- (7) En France le fromage *se sert* normalement à la fin du repas. [習慣記述型] (ibid. p. 67)

用法の制約については、ZIRIBI-HERTZ (1982 : pp. 350, 352) や春木 (2010c : p. 67) 等の主張をまとめると以下ようになる。

- (i) 動作主は潜在的・非明示で不特定多数、或いは恣意的である (19世紀には明示された実例あり²⁾)。
- (ii) 主語の属性を表わすので、実際に生起した、或いは生起中の出来事は表わせない。
- (iii) 点括相に置くことができず、時制は主として現在形だが、時に半過去形、又は継続を表わす複合過去形も可能である。
- (iv) 主語は再帰的用法と解される恐れのない場合を除いて無生物に限られるため3人称であり、サブクラスまたは総称を表わす名詞句が多く、選択の制限があるが、時に個別的なものも可能である。
- (v) 副詞的要素を伴う場合が多い。
- (vi) 迂言的受動文にできる他動詞に限られる。

一方の自動詞的用法は、受動的用法の制約(ii)で挙げている「実際に生起した、或いは生起中の出来事」を表わすとされている。この用法には時制に関する制約は特に存在しないため、以下のような点括相の実例もよく挙げられる。

- (8) Cette branche *s'est cassée* hier matin. (林 2004 : p. 347)

このように、研究者の間では程度の差はあるが5用法の分類が一般的である。しかし学校文法では4用法でも特に問題が無いためこの伝統が続いており、受動的用法に関しては文法書等に於いて「受動的用法は、多く事物の恒常的性質を表わすので、時間的に限定された複合時制ではふつう用いられない (目黒 2015 : p. 215)」や、代名動詞が受動の意味を表わす条件として「アスペクトは部分相 (町田 2015 : p. 163)」といった但し書きが添えられることが殆どである。しかし以下の様な例文もまた、「受動態が代名動詞によって表現されることがある (目黒 2015 : p.207)」という記述と共に文法書等において見受けられる。

- (9) Deux assiettes *se sont cassées*. (目黒 2015²: p. 207)³⁾

- (10) Ce meuble du XVIII^e siècle *s'est vendu* très cher. (= ce meuble *a été vendu* très cher) (DELATOUR et al. 2015¹³: p. 111)

これらの例文は伝統的な4用法では説明がつかないため、文法書等においていわゆる自動詞の用法の存在を認めるか、若しくは受動的用法の aspekto に関する記述を再検討する必要がある。実際、倉方 (2010: p. 1686) は「伝統文法では、中立的用法を立てずに、再帰的用法・受動的用法に組み入れている」という注意書きと共に前者の解決法を採用している。

筆者は松本 (2014) に於いて後述の井口 (2007b) の主張を踏まえて分析を行い、明確な結論はその後の研究に委ねたものの、以下の2点を指摘した。

- (a) 点括相に置かれた受動的用法の使用には個人の好みが作用するのではないか。
- (b) 使用は狭義の報道文に限られないのではないか。

しかし、構文の選択という観点から迂言的受動文ではなく受動的用法が積極的に用いられる理由を述べるには至っていない。また、先行研究で挙げられている典型的な事例についてインフォーマントに意見を求めたところ、文法的には成立するが実際に使用することはないという回答が返ってくることも少なくない。これは文脈を無視した作例による、単文単位の分析に偏った先行研究が生み出した欠点である。加えて、分析対象となる事例が書き言葉に偏っており、話し言葉に於ける使用例を分析した研究は殆ど見当たらず、当該の用法が多面的に考察されているとは言い難い。

これらの点を踏まえ、本研究では筆者のこれまでの研究結果も引き継ぎつつ、小説や新聞記事、学術論文といった書き言葉の実例だけではなく、インタビューやルポルタージュの書き起こし、歌詞や映画のシナリオといった話し言葉の実例も分析の対象とし、できる限り現実に即した実例を基に多面的な分析を行う。なお、研究者により使用する用語の呼称が異なるため、記述の一貫性のためにもこれ以降は問題の無い範囲で「受動的代名動詞 / (se-)moyen」等と称されてきたものを「受動的用法」で統一し、「自動詞 (自発・中立) 的代名動詞 / (se-)neutre」等と称されてきたものを「自動詞的用法」で統一する。

2. 先行研究の検討

2.1. STEFANINI (1971)

本研究が問題とする点を最初に取り上げたのが STEFANINI (1971) である。ここでは受動的用法に非点括の特性を付与しており、それが(11)の容認可能性、(12)の容認不可能性を説明すると述べている⁴⁾。しかし、STEFANINI (1971) は後者を容認している⁵⁾。

- (11) Ce livre *se vend* (bien + aux étudiants + chez les apothicaires). (ibid. p. 121)
- (12) Ce livre *s'est vendu* hier soir à quatre heures. (id.)

また、受動的用法の直説法現在では完了動詞を用いた場合に、継続的・反復的価値がより一層頻繁に確認されるとしている⁶⁾。

- (13) Dans un cas comme dans l'autre, la sauce moutarde ne *s'ajoute* qu'au dernier moment. (id.)

しかしその一方で、語り・仮定の文に於いて直説法現在でも点的な価値を持つるとしている⁷⁾。

- (14) En 1659, la paix *se conclut*, le mariage avec l'infante *se décide*, *se célèbre*... (id.)
- (15) Si la maison *se vend* un bon prix, on pourra s'offrir une belle croisière. (id.)

更には他の時制では点的な価値は更に頻繁に確認されるとしている⁸⁾。

- (16) L'affaire *s'est faite* à de bonnes conditions. (id.)
- (17) Tout le quartier *se construit* en quelques années. (id.)

しかし、氏の論文に於いては自動詞的用法に相当する概念はまだ提唱されたばかりの頃であり、上記の例の幾つかはそれに該当すると思われる。従って主

張の一部分が、受動的用法と自動詞的用法を区別する現代の考え方と相容れないのも当然である。

2.2. Boons, GUILLET et LECLERE (1976)

アスペクトの問題に関して先ず、(18)のように過去に於いて繰り返し生じた出来事を表現する際に受動的用法が一般的な価値を持つとしている⁹⁾。

- (18) Les cuisses de grenouilles *se sont mangées* ([?]hier midi + pendant longtemps). (p. 132)

また、unique で日付も特定可能であり、且つ動作主も完全に特定可能な出来事を表す次の事例を挙げている¹⁰⁾。

- (19) La question *s'est discutée* hier matin avec passion dans la salle du conseil. (id.)

しかし、この論文が挙げる例をすぐには許容しないインフォーマントも多く、容認可能性そのものに問題があるという事実は否めない。

2.3. ZRIBI-HERTZ (1978, 1982, 1987)

受動的用法のアスペクト制約解除に関して BOONS et al. (1976) が挙げている次の対比に対し、動詞の性質ではなく名詞の具体性に違いがあると述べている¹¹⁾。つまり、アスペクト制約はあくまで名詞の具体性の問題であって、受動的用法の特徴ではないということである¹²⁾。

- (20) *Ces lunettes *se sont nettoyées* hier à huit heures et quart. (p. 356)
(21) La question *s'est discutée* hier matin avec passion dans la salle du conseil. (p. 357)
(22) [?]Cette photo *s'est prise* vendredi. (p. 359)
(23) La décision *s'est prise* hier soir. (id.)

しかし、主語が具体的な場合に於いて、受動的用法の、しかも点括相で現れる事例があることを認めている¹³⁾。

- (24) Où la victime *s'est-elle aperçue* pour la dernière fois ? (p. 362)
- (25) Le criminel *s'est arrêté* hier soir. (id.)
- (26) Votre tableau *s'est vendu* hier soir. (p. 395)

加えて、完了相での容認度が、恐らく時間を表わす副詞句によって改善され得るとしているが、これは受動的用法の非完了性と関連がありそうだと示唆するに留めている¹⁴⁾。

- (27) [?]Ce livre *s'est imprimé* la semaine dernière. (p. 396)
- (28) Ce livre *s'est imprimé* en une semaine. (id.)

例も豊富であり一見したところ説得力があるようにも思われるが、春木(2010c : p. 67)をはじめとする研究者から受動的用法と自動詞的用法の区別の曖昧さを指摘されている。加えて、例に作為性が感じられるものが多く、点括相の受動的用法が迂言的受動文とどの点で異なるかについての記述が無いため、本研究が問題とする点を正当化するにはやや論が弱い。

2.4. LYONS (1989)

受動的用法に関するアスペクト制約を引き起こすのは非明示の動作主の存在であると結論付けており¹⁵⁾、これが受動的用法を制限することで、自動詞的用法や迂言的受動文といった他の構文との意味の重なりを減らすのに役立つとしている¹⁶⁾。しかし、例外的な事象であると述べつつも、総称的な文脈に於いて動作主を想定する受動的用法が、制約が解除された状態で出来事的な文脈に現れることがあると述べており¹⁷⁾、気付いた点を3つ挙げるに留めている。

1つ目として、(29)に於いて *s'est nettoyée* が容認されるのは、前節の同じ動詞 (a nettoyé) を繰り返し用いようとする文体上の要因がアスペクト制約に勝り、違反を許してしまうからだとして述べている¹⁸⁾。

- (29) On a nettoyé ces deux chemises avec deux détergents différents ; celle-ci *s'est bien nettoyée*, mais pas celle-là. (p. 177)

2つ目に、総称的だが制約が解除された(30)も挙げており、本例の解釈を「quiconque a pris du café ce matin a dû le boire froid」という、ある程度は総称の価値を持ったものとしている¹⁹⁾。

- (30) Cet hôtel est bizarre. Les chambres sont sales, on vous sert du pain rassis, de la bière éventée. Ce matin le café *s'est bu* froid ; ce soir il *se boira* peut-être tiède. (id.)

そして最後に、文体的・語用論的な要因によって引き起こされた受動的用法の出来事的な用法が、解釈の変化を生み出していると述べている。この場合は、動詞の行為が人に参加を要求するのにも関わらず、動作主性が取り消されるか最小化されることから、より自動詞的用法に近付くというものである²⁰⁾。

LYONS (1989) の主張に関しては、「[...] je me bornerai ici à faire quelques remarques à ce propos」という断りがあるので仕方のないことではあるが、文体を要因としたり自動詞的用法に近いと述べるだけでは、本研究が問題とする点を明確にするにはやはり弱いと言わざるを得ない。具体性のある要素や明確に自動詞的用法と異なる点等を挙げておくべきだろう。

2.5. MELIS (1990)

点括相に置かれた受動的用法を認める立場を取っており、特に次例の *intentionnellement* のような様態を表わす副詞を挿入できるものを取り上げて、当該の副詞が行為者の様態を表わすことから、動作主的な解釈できると述べている²¹⁾。

- (31) La bataille *s'est livrée* hier soir. (p. 88)
(32) La bataille *s'est intentionnellement livrée* ici hier soir. (p. 89)
(33) La question *se traitera* devant l'assemblée. (p. 88)
(34) La question *se discutera intentionnellement* demain. (p. 89)
(35) Les asperges *se vendent* cher (en ce moment). (p. 88)
(36) Les asperges *se vendent intentionnellement* peu cher en ce moment. (p. 89)

また、ZRIBI-HERTZ (1982) に賛同し、アスペクト制約を受動的用法の定義的な特徴と見なしておらず、あくまでも動詞の時間的な特徴と、名詞の限定辞、更には発話の状況への *ancrage* を妨げる動作主の不在を制約の原因としている²²⁾。

迂言的受動態との違いに関しては非出来事的解釈の時に最も明確に出るものの、その他の解釈では差が縮まるとしており、次例に於ける一番の違いを前者

のような「prospectif な認識で、進行中か今後生起する事項」と、後者のような「rétrospectif な認識で、完了した事項」であるとしている²³⁾。

- (37) Les principes sont connus depuis longtemps, mais l'application pratique ne *se fera* qu'au XIV^e siècle. (p.99)
- (38) Les principes sont connus depuis longtemps, mais l'application pratique ne *sera faite* qu'au XIV^e siècle. (id.)

intentionnellement に関する主張は納得できるものである。特に question や asperge といった自発性の感じられない無生物の主語名詞句が、非明示の動作主を強く感じさせる副詞句と共に起する例は間違いなく受動的用法に分類できるものである。

2.6. TSURUGA (1994)

他の研究に於いて非文とされてきた実例に少しの変化を加えることで容認度が上がることを示しており、動詞そのものの形ではなく、他の要因やコンテキストが容認度、更に用法を決定すると結論付けている²⁴⁾。例えば次の各例では状況補語の変更による容認度の改善を示している。

- (39) *Ces lunettes *se sont nettoyées* **hier à huit heures**. (p.315)
- (40) Ces lunettes *se sont nettoyées* **toutes seules**. (id.)
- (41) [?]L'Amérique *s'est découverte* **en 1492**. (id.)
- (42) L'Amérique *s'est découverte* **toute seule**. (id.)

以下の例では「非総称的な事行の価値を持つ受動的用法が、具体的な名詞句を主語に取りづらい」という制約に対する反例を挙げている。

- (43) [?]Cette photo *s'est prise* vendredi. (id.)
- (44) La décision *s'est prise* hier soir. (id.)
- (45) Votre tableau *s'est vendu* hier soir. (id.)

それまで非文とされてきた例の容認度を上げ、既存の制約に対する反例を挙げるといふ点に於いては、この着眼点は評価できるものがある。しかし、コンテキストが用法を決定すると述べておきながら各例に前後の文脈が無く、作為

性の強い例ばかりとなっており、やや説得力に欠けているという点は認めざるを得ない。

2.7. 浅野 (1996, 1998ab, 1999, 2001)

浅野 (1999) では実例を用いて受動的用法を非人称受動文・迂言的受動文との選択の観点から考察しており、他の先行研究には見られないものである。結論を先に挙げると、「ある文脈において受動形か代名動詞形を選択する際、行為者性とアスペクトが選択の主要な基準となる (p. 124)」と述べている。具体的には「前者 (= 受動形) より後者 (= 代名動詞形) の方が行為者性が低く、前者が結果を表すのに適し後者が静的状態を表すのに適する (p. 122)」や「超時的な記述であり、このことが受動形の採用を妨げる。行為者を思い浮かべることができても、漠然と一般的な人である場合代名動詞形とは両立しうる (p. 123)」等といった分析を行っている。

他の研究者と異なる視点の分析や、実例からの採集という点は評価できるが、以下のようにやや抽象・観念的な分析もあり、受動的用法を特徴付けるにはやや説得力の足りないところがある。

主辞—述辞—目的辞という形においては動作主の行為が被動作主まで時間の軸に沿って一直線に流れているため、継起的な行為を表すのに適し物語を展開させる。それに対して代名動詞は述辞の行為の及ぶ目的辞 (se) が動詞の前に置かれ流れが一旦戻る形になり、そのため漸進性に欠け静的でかしこまった説明口調の叙述に適するのである。[...] 前置詞 par によって行為者が明示されているが、la qualité de l'air は無生物である。現実には「空気の質」が春の到来を「告げる」ことはあり得ないが、人がそれによって春が来たのを知るときそれがあたかも行為者であるかのように感じることは不自然ではない。受動形の場合、このような純度の高い「擬人化」が行われた場合、無生物であっても par を使用することによって行為者として認定されることが間々ある。(p. 123)

2.8. 春木 (1987-2012)

受動的用法と自動詞的用法の区別に関する春木 (1987-2012) の主張は以下のようにまとめられる。

主語の属性、もしくは潜在的事態のあり様を述べるのが受動用法であり、

時間軸上に定位できる具体的な事態を述べるのは自発用法である。自発用法のプロトタイプは人為的な力が加わらずに起こった自発的な事態を述べるが、普段は受動用法と考えられる再帰構文であっても、動作主の背景化が強くなると自発用法への移行が起こる。動作主やアスペクトに関する制約が破られている場合として引用されることがある例外は、筆者の考えではすべて自発用法である。(2010c : p. 68)

アスペクトに関する制約が破られている場合については以下のような記述がある。

[...] moyen は主として現在形や半過去形で用いられ、時に継続を表わす²⁵⁾ 複合過去形や非点括的な未来形でも用いられるが、発話の内容が時間軸上の一点に位置付けられる(6)²⁶⁾ のような例は容認されない。(1994 : p.33)

「継続を表わす複合過去形」は(46)、「非点括的な未来形」は(47)が該当する。

- (46) (=18) Les cuisses de grenouilles *se sont mangées* pendant longtemps.
 (47) Un pantalon *se lavera* à l'eau enzymée. (1994 : p. 34)

春木(1987-2012)の主張は曖昧な点を残さず単純明快であるが、白黒つけるためにやや言い過ぎな点も見られる。つまり、「時間軸上に定位できる具体的な事態を述べるのは自発用法である」とすれば受動的用法と自動詞の用法の区別は明確に付くので所々の問題は解決されるように思われる。しかし、たとえ「動作主の背景化が強く」なったとしても、「人為的な力が加わって起こった」としか考えられない事態がある場合は、この説明では対応できない。従って「時間軸上に定位できる具体的な事態を述べる」受動的用法の存在を認めるべきなのである。

2.9. 井口(1994-2012ab)

井口(2007a)までは自動詞の用法の拡張(大)例として以下のような実例を扱い、(48-50)に関してはその理由をこう述べている。

したがってこの人物²⁷⁾の存在を想定しながら、自然発生的な解釈を得ることが可能である。こうして *se voir, s'entendre* という、二項述語であり

ながら「自発的」という意味特性をもつ形式が可能となる。(2003a : p. 17)

また、(51)の *se vendre* に関しても同じ理由で説明している (2003a : pp. 30-31)。

(48) *Cela ne s'est jamais vu.* (2003a : p. 15)

(49) *Ce bruit s'est entendu de loin.* (id.)

(50) *La nouvelle s'est sue tout de suite.* (ibid. p. 20)

(51) *Le dernier exemplaire de ce livre s'est vendu* il y a une heure. (ibid. p. 30)

しかし井口 (2007b) では、BOONS et al. (1976) や ZRIBI-HERTZ (1982) が指摘している、いわゆる「受動的用法のAspect制約解除」についてこう述べている。

受動的代名動詞は、迂言的受動文との競合により、「未完了」Aspectに限定される。ただこの制約が緩められる場合がある。それは文の他動性を低下させ、あたかも自然発生的に生じた出来事であるかのように示したいという表現欲求がある場合である。客観性が求められる学術論文、あるいは報道文などにこのような状況はよくみとめられる。「自発的中相」としての中立的代名動詞から拡張されたものである受動的代名動詞は、動作主の存在を含意しながらも、明示することを許さない。その点において、迂言的受動文に比べて「自動詞的性格」を強くもっているといえる。このような特性を持つ受動的代名動詞は、上記の表現欲求にこたえうる形式であり、そのため未完了性を犠牲にしてもそれに従う、といった事例が出てくるのである。(2007b : pp. 56-57)

本研究が問題としている点について井口 (1994-2012ab) は「自動詞的用法の拡張 (大)」と「客観性を求めるAspect制約の解除」という2つの側面から考察しているように思われる。後者の主張は松本 (2014) で多少触れたものの、先行研究があまり多くないため、引き続き考察対象とする点である。

2.10. GAATONE (2015²)

幾つかの場合に於いては、動作主の無い迂言的受動文と受動的用法の意味は

ほぼ完全に同じであり、加えて点括弧や完了相の時制に置かれてもこの同義性はあり得るとしている²⁸⁾。

- (52) Il connaît l'heure, le lieu de ce « sommet secret France-OLP » - et naturellement aussi, ce qui *s'y est dit* [...]. (= ce qui *y a été dit*). (p.415)
- (53) Dans deux ans quand *s'inaugurera* la nouvelle présentation du département assyrien du musée du Louvre [...]. (= *sera inaugurée*) (id.)
- (54) Mais à date relativement récente, l'habitude *s'est prise* d'utiliser ce même terme [...]. (= *a été prise*) (id.)

この主張に関しては GREVISSE (2016¹⁶: p. 1091) もほぼ同様のこと²⁹⁾を述べているものの、ニュアンスが異なるという記述は看過できないものである。この点に関しては後述の迂言的受動文との比較にて検証する。

3. 分析の方法と手順

前述のように先行研究は書き言葉の分析に偏っていたため、話し言葉の実例も含めて言語資料を収集し、紙媒体の物はスキャナーの OCR (光学文字認識) 機能を利用して文字検索ができるようにした上で、独自のコーパスを作成した。以下が収集した媒体の一覧である。なお、この時点ではウェブ検索機能を利用した実例の収集は行っておらず、後述の分析の際に必要なに応じてこれらの検索を利用した。

【書き言葉の実例を収集した媒体】

- *Bonjour JAPON* (N° 51-57)
- *Le Petit Robert des Noms Propres* (2010)
- 小説等 (約 500 冊分)
- 紀要論文・実践報告・書評等³⁰⁾³¹⁾
- 『ふらんす (1987 年 2 月号-2016 年 11 月号)』
(白水社)³²⁾³³⁾³⁴⁾

【話し言葉の実例を収集した媒体】

- *Chocolat* (N° 1-494)³⁵⁾
- *L'avant-scène cinéma* (N° 329-635)³⁶⁾
- *7 jours sur la planète*³⁷⁾

独自コーパスの作成後はまず、代名動詞の複合形を検索機能を用いて探し出

し、受動的用法の例文を抜き出していった。結果として約 1100 の例文を集めた³⁸⁾。以下が検索した代名動詞複合形の一覧である。

表 1 検索した代名動詞複合形の一覧

s'être + p.p.	se seront + p.p.
s'est + p.p.	se serait + p.p.
se sont + p.p.	se seraient + p.p.
s'était + p.p.	se soit + p.p.
s'étaient + p.p.	se soient + p.p.
se fut + p.p.	se fût + p.p.
se furent + p.p.	se fussent + p.p.
se sera + p.p.	s'étant + p.p.

次に、収集した例文で用いられている動詞を抜き出し、動詞毎の頻度表を作成した。そして、受動的用法には前述のように「迂言的受動文にできる他動詞に限られる」という特徴があることから、各動詞の迂言的受動文の数を「p.p.(e) (s) + par³⁹⁾」という検索語で数え上げ、頻度が多いものから順に並べていった。以下がその表である。

表 2 迂言的受動（文）の頻度順位

順位	動詞	受動・自動詞的用法の数	迂言的受動（文）の数
1	faire	53	213
2	donner	1	97
3	finir	0	85
4	réaliser	0	84
5	porter	0	79
6	suivre	0	77
6	éclairer	0	77
8	proposer	1	76
8	écrire	5	76
10	passer	0	73
以下省略			

最後に、迂言的受動文の数が多い動詞から個別に実例を検討し、受動的用法ではないものを排除して数が多い順に並べていった⁴⁰⁾。なお、対象とする動詞が約 300 にものぼるため、受動的用法の数が 5 例未満のものは排除した。その結果が以下の表である。

表 3 受動的用法の頻度順位

順位	動詞	受動的用法の数	迂言的受動（文）の数
1	faire	53	213
2	ouvrir	20	35
3	organiser	11	54
4	effectuer	9	26
5	fermer	6	36
6	écrire	5	76
以下省略			

se faire に関しては使役構文や属詞を伴う例も多く存在し、分析が及ぶ分野が広くなり過ぎるため、本研究では取り扱わない。また、s'ouvrir / se fermer に関しては ouvrir / fermer という自動詞があり、こちらも分析が広範囲に及び過ぎることから、本研究では取り扱わない。従って、以上の 2 つの動詞を除いた 3 つの動詞を本研究での分析対象とし、以下に分析・考察をまとめる。なお、上記の 3 つの動詞に加え、筆者が興味深いと感じた動詞も必要に応じて取り上げるほか、分析対象動詞の選定時には複合形だけを検索していたが、動詞の選定が済んだことでここからは単純未来形、単純過去形の実例も取り上げる。

3.1. 分析対象動詞の代表例

まずは以上 3 つの動詞の代表例のみ、以下に挙げる。

- (55) ORGANISER : Les relations professeur-étudiants ont aussi été sensiblement modifiées. Petit à petit, ce sont les étudiants eux-mêmes qui ont produit le contenu des cours. Les cours se déroulaient en fonction de leurs demandes, de leurs besoins. Dans la première partie, des initiations ou des révisions grammaticales ont été réclamées car elles étaient nécessaires pour la rédaction d'un texte pour la page In-

ternet. Ensuite, à partir de septembre, les cours *se sont organisés* en fonction des réponses reçues. Cette position de l'enseignant, présent uniquement pour aider l'apprenant à atteindre un objectif qui a été défini en commun était très confortable, très agréable. (『JP』 12 : p. 64)

- (56) EFFECTUER : Ils sont de divers ordres. Tout d'abord, on peut jouer sur la « prosodie » : l'intonation et le rythme, par exemple en valorisant la clarté du timbre d'un son vocalique en le plaçant à un sommet mélodique. D'autre part, le timbre d'un son vocalique est plus intelligible en position accentuée. Ceci *s'effectuera* d'autant plus facilement que l'enseignant aura habitué les apprenants à imiter une intonation et un rythme donnés. (『EDFJ』 18 : p. 45)
- (57) ÉCRIRE : Un jour, je te parlerai en détail des négriers, me promet-elle. Un autre jour. Là tu comprendras, tu comprendras tout. C'est dans leurs cales que tout *s'est écrit*, dans les plis de la mer, dans le vent gorgé de sel et dans cette odeur de sang. Une odeur immonde, partout présente mais que l'on fait mine de ne plus reconnaître, enveloppe toujours l'île. Trop de sang, tant de sang, gémit-elle. Nous étions plus de cent mille, cent mille, deux cent mille, trois cent mille. Coulées de sang, traînées de sang, rivières et océans de sang. Notre histoire est écrite avec du sang, et pour l'éternité nous pataugerons dans le sang. (『JP』 24 : p. 14)

上記のどの例に関しても、複合過去の場合、文脈を鑑みればわかるように決して「反復を表わす」ものではなく、どれも点括相に置かれたものである。加えて、自動詞的用法が表わすような独りでの発生した自発的な出来事ではなく、明示されていない場合が殆どではあるが、動作主の強い働きかけなくして発生し得ない出来事ばかりである。この時点で、受動的用法に関して言及され続けてきた制約が、少なくとも一部の動詞に限って言えば適用されないことになる。次節からは従来の枠組みに収まらないこれらの受動的用法に関し、更に細かい特徴を分析する。なお、これ以降は筆者が独自に作成したコーパスからの実例以外のものも必要に応じて含めて検討する。

3.2. 主語名詞句の特徴

朝倉（2002：pp. 550-551）が受動的用法の主語名詞句について「主語が人物であると、普通は再帰の意味になる」と述べているように、採集した例には主語名詞句が人物である場合は含まれていない。また、比喩的に考えて事行を独りで、或いは自発的に行なうことのできる語句も含まれておらず、他の要因の働きかけ無しには事態が成立しない語句ばかりである。ここで、前述に於いて本研究で対象とする3つの動詞に含めていなかった動詞の例を挙げる。

- (58) DIRE : Alors que les étudiants échangent leurs réponses en japonais, je vais de groupe en groupe, écoutant ou bien intervenant en français — je tiens à m'exprimer en français afin de sauvegarder l'image de celle qui les amène vers un univers en français — pour demander au rapporteur du groupe un petit résumé de *ce qui s'est dit*. (『仏語仏文化』20：p. 31)

se dire の場合は *ce qui s'est dit* という形で現れることが多く、発話内容（*ce qui*）に自発性を感じるのは不可能である。

3.3. 副詞的要素の特徴

前述した受動的用法のなかに「副詞的要素を伴う場合が多い」とあったように、採集した例には副詞的要素を伴うものが圧倒的に多かった。全ての例を挙げることはせずに、以下はある程度の傾向が見て取れた例を挙げる。

まず *s'effectuer* は疑問副詞 *comment* との親和性が高いことが確認され、9例中3例がそれに該当する。

- (59) « *Comment s'est effectué votre rencontre avec le roman de Patricia Highsmith ?* » (ASC491 : p. 221)
 (60) « *Comment s'est effectué le choix des autres acteurs ?* » (ASC498 : p. 88)
 (61) « *Comment s'est effectué le travail avec les comédiens ?* » (ASC498 : p. 124)

同じく親和性の高さで言えば、*s'organiser* は *autour de* と共起する例が多く見

つまり、11 例中 4 例が該当する。

- (62) Les travaux du Conseil de l'Europe se sont organisés *autour de* trois mouvements : la définition de la compétence plurilingue et pluriculturelle (Coste, Moore et Zarate, 1997), la définition d'une politique éducative plurilingue (Beacco et Byram, 2003 et 2007) et la définition de cadres de référence pour une éducation plurilingue. (『RJDF』 7 : pp. 14-15)
- (63) Vide-Plein, Yin-Yang et Ciel-Terre-Homme constituent donc les trois axes hiérarchiques *autour desquels* s'est organisée la cosmologie chinoise. (CHENG1982 : p. 21)
- (64) Zone A. - Avant tout voué aux affaires, le nouveau quartier (illustration p.13) qui couvre 130 ha sur les communes de Puteaux et de Courbevoie constitue la première étape des travaux. Sa construction s'est organisée *autour de* l'axe situé dans le prolongement du pont de Neuilly et qui, servant de collecteur aux routes N 13 et N 192, représentait l'artère la plus chargée de France. (MICHELIN1976 : p. 198)
- (65) Le semestre s'est organisé *autour de* quatre phases essentielles. Dans un premier temps, nous avons travaillé sur un court texte d'Italo Calvino, Crescendo, tiré du Rêve de l'escalier. Ici l'auteur propose dix versions du même récit qui se résume en une très simple séquence événementielle (une femme est seule chez elle, on frappe à la porte, elle va ouvrir et suit la description du visiteur), versions qu'on peut ordonner crescendo. Ces dix versions étaient données dans le désordre et les étudiants travaillant par petits groupes devaient proposer ce qui leur semblait l'ordre le plus convaincant et [...] (『JP』 19 : p. 50)

3.4. その他の特徴

前述の受動的用法の特徴に「動作主は潜在的・非明示で不特定多数、或いは恣意的である（19 世紀には明示された実例あり）。」とあり、やはり採集した実例の中にも動作主が明示されている例は無い。また、出現する節が主節か関係節に限られるという傾向や、平叙・否定・疑問文のどの形式の文にも現れるということもわかった。

4. 迂言的受動文との競合

ここからは、選定した各動詞が最も頻繁に要求する主語名詞句を用いて、迂言的受動文と受動的用法の違いを分析する。また、収集済みの受動的用法に於いて観察された特徴についても同様に、2つの構文間の違いを分析する。

主語名詞句の選定は Antidote Mobile 2 (iOS アプリ版) の cooccurrences 機能を用いて、他動詞構文に於ける最も頻度の高い直接目的補語の名詞句を5つ選び、そこから分析に用いるものを決定した。なお、事例の検索には LexisNexis® Academic⁴¹⁾ を用いてより信頼性の高い事例を収集した。また、システムの仕様上 3000 例以上の数値は出すことができないため、表記は「3000+」とし、比を算出する際は 3000 として計算した。

4.1. ORGANISER

他動詞 organiser が最も頻繁に要求する直接目的補語は頻度順に manifestation / réunion / conférence / rencontre / colloque となるが、上位4つは対応する似た意味の動詞を持つことから (manifestester / réunir / conférer / rencontrer)、自発性が無いとは言いきれない。その点に於いて colloque は対応する動詞 (colloquer) を持ちつつも意味の繋がりはないことから、自発性は感じられない。従って、次節ではこの名詞について考察する。

4.1.1. colloque

丸括弧内のパーセンテージは各時制に於ける受動的用法と迂言的受動文が出現した割合であり、その前の数値は出現数である。

表4 colloque を主語にした受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (7, 1.45%)	迂言的受動文 (477, 98.55%)
colloque(s) s'être organisé(s) 0 (0%)	colloque(s) avoir été organisé(s) 0 (0%)
colloque s'est organisé 0 (0%)	colloque a été organisé 153 (100%)
colloques se sont organisés 0 (0%)	colloques ont été organisés 26 (100%)
colloque s'était organisé 0 (0%)	colloque avait été organisé 21 (100%)

現代フランス語における点括相の受動的代名動詞について

colloques s'étaient organisés 0 (0%)	colloques avaient été organisés 5 (100%)
colloque se fut organisé 0 (0%)	colloque eut été organisé 0 (0%)
colloques se furent organisés 0 (0%)	colloques eurent été organisés 0 (0%)
colloque se sera organisé 0 (0%)	colloque aura été organisé 0 (0%)
colloques se seront organisés 0 (0%)	colloques auront été organisés 0 (0%)
colloque se soit organisé 0 (0%)	colloque ait été organisé 2 (100%)
colloques se soient organisés 0 (0%)	colloques aient été organisés 0 (0%)
colloque se fût organisé 0 (0%)	colloque eût été organisé 0 (0%)
colloques se fussent organisés 0 (0%)	colloques eussent été organisés 0 (0%)
colloque se serait organisé 0 (0%)	colloque aurait été organisé 0 (0%)
colloques se seraient organisés 0 (0%)	colloques auraient été organisés 0 (0%)
colloque(s) s'étant organisé(s) 0 (0%)	colloque(s) ayant été organisé(s) 0 (0%)
colloque s'organisa 0 (0%)	colloque fut organisé 8 (100%)
colloques s'organisèrent 0 (0%)	colloques furent organisés 1 (100%)
colloque s'organisera 7 (3.13%)	colloque sera organisé 217 (96.87%)
colloques s'organiseront 0 (0%)	colloques seront organisés 44 (100%)

colloque を主語に据えた場合、受動的用法の実例は殆ど見つからず、迂言的受動文の実例が圧倒的に多いことがわかる。唯一、直說法単純未来の場合のみ実例が見つかったため、この時制で2つの構文間の比較を行う。

先ず、主語名詞句と動詞は共通しているため、副詞句のみを比較する。なお、全ての例を分析するには数が膨大なため、無作為に選出した50例までを分析の対象とし、以降も副詞句の分析をする際には同様の方針で行う。

【受動的用法】形式・様態を表す副詞句の例（3例 43%⁴²⁾）：

- (66) *Ouvert par M. Jean-Pierre SUEUR, ce colloque s'organisera en quatre tables rondes (de 9h à 18h).*⁴³⁾
- (67) Le colloque s'organisera *sous la forme de trois ateliers* et questionnera ses participants à propos de la mobilisation pour la lutte contre les déterminismes sociaux, de l'association des parents à la mission éducative de l'école et de la favorisation du travail conjoint des collectivités de la ville d'Ingres et de l'éducation nationale.

【受動的用法】対象・関連を表す副詞句の例（5例 71%）：

- (68) Le colloque s'organisera *autour de deux tables rondes réunissant des représentants d'universités et d'entreprises innovantes.*
- (69) Ce colloque s'organisera *autour de trois axes : les portraits, les écritures et l'Histoire.*
- (70) Le colloque s'organisera *autour de conférences et de tables rondes qui viseront à donner une plus grande lisibilité des actions menées et des outils d'application du concept.*

【受動的用法】時を表す副詞句の例（1例 14%）：

- (71) *Et à partir de 17h15,* le colloque s'organisera autour la thématique de « la prise en compte des risques routiers dans l'entreprise », puis à 18h10, de « l'éco-construction, une dynamique partagée », et enfin à 19h, par la présentation des lauréats de l'école des jeunes dirigeants du bâtiment.

一方の迂言的受動文の場合、受動的用法と同様の語句も確認されたが、以下のような副詞句も確認された。

【迂言的受動文】副詞句が何も付かない例（1例、2%）

【迂言的受動文】動作主⁴⁴⁾を表す副詞句の例（16例、32%）：

- (72) Début 2017, un grand colloque sera organisé sur le même thème *avec différents partenaires*, notamment de l'emploi et la formation.
- (73) *En association avec l'université de Rennes 2 et l'association Breizh-Eire,* un colloque sera organisé vendredi 28 et samedi 29, au-

tour du thème « Bretagne-Irlande 1916-2016 : chemins croisés ».

- (74) Un colloque sera organisé *par le Ceser Centre-Val de Loire* autour du thème « La requalification des friches urbaines : quelles perspectives ? », le 24 mai de 9 heures à 17 heures, au Conseil régional du Centre-Val de Loire, 9 rue Saint-Pierre-Lentin à Orléans.

【迂言的受動文】 目的を表す副詞句の例 (11 例、22%) :

- (75) En effet, au cours du mois d'octobre 2017, un colloque sera organisé avec la participation de près de 200 personnes *pour présenter les reliquats des recherches et tous les documents élaborés*.
- (76) *Dans le même esprit de prospective*, un colloque sera organisé à l'initiative de l'IUT sur la relation ville port et ses retombées économiques avec la participation de la CCI, de l'agglomération, de la région, de la Ville, etc.
- (77) *À cet effet*, un colloque sera organisé du 1^{er} au 2 juillet 2014 au Centre national des archives de Ouagadougou.

【迂言的受動文】 場⁴⁵⁾を表す副詞句の例 (24 例、48%) :

- (78) Cette année, un colloque sera organisé avec la DRDJS le 21 juin à 18h *au lycée Louis-Armand à Poitiers* sur les thèmes : L'histoire du sport à travers la presse et dans le département ; la politique ministérielle de préservation de la santé du sportif avec un médecin et l'aspect juridique de la répression du dopage.
- (79) En partenariat avec la Ville de Nîmes, un colloque sera organisé avec une exposition des témoignages, le premier semestre 2016, *à Nîmes*.
- (80) Mercredi 4 mai, quatre jours avant l'ouverture du Mémorial des civils dans la guerre, un colloque sera organisé *au Forum* sur le thème « Populations vulnérables parmi les victimes civiles. Réflexions pour une société inclusive ».

受動的用法に於いても観察された「形式・様態を表す副詞句」に関しては大きな差異は認められなかったが、「対象・関連を表す副詞句」に関しては *au-tour de* を用いたもの (8 例、16%) に加えて *sur* を用いたもの (12 例、24%) も観察された。また、「時を表す副詞句」に関してはその実数 (37 例、74%)

が際立って多いものであった。

しかしこれらの特徴が、迂言的受動文の実例の多さによるものなのか、本質的な両構文間の違いを示唆するものなのかはこの時点では断言できない。従って、受動的用法の実例をより多く挙げるためにも、別の主語名詞句による分析も行う。colloque を選定した時と同じ手順で主語名詞句を頻度順に並べると、colloque 以下は élection / exposition / référendum / fête / journée となり、対応する似た意味の動詞を持たない référendum での分析を試みたが、受動的用法に於ける実例数が極端に少なかった。従って、受動的用法に於ける実例がある程度見つかった次点の journée について次節で考察する。

4.1.2. journée

表5 journée を主語にした受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (189, 7.02%)	迂言的受動文 (2504, 92.98%)
journée(s) s'être organisée(s) 0 (0%)	journée(s) avoir été organisée(s) 0 (0%)
journée s'est organisée 51 (5.54%)	journée a été organisée 870 (94.46%)
journées se sont organisées 8 (3.14%)	journées ont été organisées 247 (96.86%)
journée s'était organisée 0 (0%)	journée avait été organisée 126 (100%)
journées s'étaient organisées 0 (0%)	journées avaient été organisées 13 (100%)
journée se fut organisée 0 (0%)	journée eut été organisée 0 (0%)
journées se furent organisées 0 (0%)	journées eurent été organisées 0 (0%)
journée se sera organisée 0 (0%)	journée aura été organisée 1 (100%)
journées se seront organisées 0 (0%)	journées auront été organisées 2 (100%)
journée se soit organisée 0 (0%)	journée ait été organisée 2 (100%)
journées se soient organisées 0 (0%)	journées aient été organisées 1 (100%)
省略	

journée s'organisa 0 (0%)	journée fut organisée 13 (100%)
journées s'organisèrent 0 (0%)	journées furent organisées 2 (100%)
journée s'organisera 111 (11.04%)	journée sera organisée 894 (88.96%)
journées s'organiseront 19 (5.4%)	journées seront organisées 333 (94.6%)

journée を主語に据えた場合は、迂言的受動文と比べると確かに割合は少ないが、受動的用法の実例もある程度は見つかる結果となった。まず后者の副詞句の特徴を挙げる。

【受動的用法】 動作主を表す副詞句の例 (0 例、0%)

【受動的用法】 目的を表す副詞句の例 (1 例、2%) :

- (81) *Afin de contourner, mais aussi d'exploiter les différences culturelles, les journées s'organiseront autour d'ateliers d'expression (chant, danse et musique).*

【受動的用法】 場を表す副詞句の例 (1 例、2%) :

- (82) *C'est à Ballinakill, à 120km à l'ouest de Dublin, au départ du collège de Heywood que les journées se sont organisées : visite de la ville et du Trinity College à Dublin, mais aussi Kilkenny, ville médiévale et ancienne capitale.*

colloque の迂言的受動文の実例において観察された特徴と同じものは確かに存在していたが、189 例中の僅か 2 例であることから参考となる例と見なすことは難しい。一方、colloque の受動的用法で観察された特徴は今回も同様にある程度の数が観察された。

【受動的用法】 形式・様態を表す副詞句の例 (13 例、26%) :

- (83) *La journée s'organisera de la façon suivante : le matin, le hall de la mairie sera transformé pour l'occasion en salle de classe où se déroulera une traditionnelle dictée.*
- (84) *La journée s'organisera ainsi en plusieurs temps : de 12h à 14h,*

rencontre entre les professionnels de santé et les acteurs du maintien à domicile ; de 14h à 15h, présentation au public des professionnels et de leurs différentes missions, avec visite des locaux à partir de 15h.

- (85) C'est sur le thème des crêpes et des galettes que la journée s'est organisée, *à la grande joie des élèves de l'école de Plomeur, près de Pont-l'Abbé*, en séjour à la base du Douron.

【受動的用法】対象・関連を表す副詞句の例（10例、20%）：

- (86) La journée s'est organisée *autour du thème de l'hygiène de vie : du corps, des dents, du sommeil, de l'alimentation.*
- (87) Bien entendu, ils ont pu faire une promenade dans le petit train touristique à vapeur, puis la journée s'est organisée autour de plusieurs ateliers pédagogiques, *en rapport avec la région visitée.*

【受動的用法】時を表す副詞句の例（4例、8%）：

- (88) *Entre soleil le matin et pluie en fin d'après-midi*, la journée s'est organisée autour du concours de labour.
- (89) Il aura lieu du 11 au 25 juillet ; les journées s'organiseront avec des cours avec un professeur d'anglais, *le matin, et l'après-midi* des activités diverses.

迂言的受動文の場合は *colloque* の場合と同様に、多様な副詞句が観察された。ここでは全てを挙げることはせずに、受動的用法には観察されなかったもののみを挙げる。

【迂言的受動文】副詞句が何も付かない例（1例、2%）

【迂言的受動文】動作主を表す副詞句の例（18例、36%）：

- (90) À Paimpol, ce dimanche, la journée sera organisée *par des associations et artistes réunis en collectif.*
- (91) Cette journée a été organisée *en partenariat avec l'entreprise Géomesure, distributeur de la marque de matériel topographique Trimble, et plus particulièrement avec Diane Bonnemans, technico-commerciale, venue pour l'occasion accompagnée de Rachel*

Heck, ingénieure support, pour présenter aux étudiants deux types de scanner ainsi qu'une station totale et un GPS de même marque.

- (92) *Ces journées ont été organisées conjointement par les offices de tourisme du Val Dunois et du Pays de Stenay, les archives municipales de Stenay et le musée de la bière.*

【迂言的受動文】 目的を表す副詞句の例（10 例、20%）：

- (93) *Cette journée a été organisée dans le but de rendre hommage aux victimes de la route, ainsi qu'aux services de secours et de soutien et aussi attirer l'attention sur l'ampleur des dégâts tant émotionnels que physiques causés par ces accidents de la route.*
- (94) *Une journée a été organisée afin de sensibiliser les jeunes au handicap.*
- (95) *Samedi, pour fêter le 20^e anniversaire du foyer des Sorelles, à la ferme de la Gaudière, à Thoiré-sur-Dinan, une journée a été organisée.*

迂言的受動文は受動的用法と異なり動作主を明示できることから、動作主を表す副詞句の数が多いことは予想が付く。しかし、それ以外の種類の副詞句が受動的用法よりも多様で、数もより多いという点に関しては、数々の先行研究にて指摘されてこなかった点であり、両構文間の差異を定義付ける要因になり得るかもしれない。

4.1.3. autour de

次に、s'organiser と共起する率の高かった autour de を伴う例を見てみる。今回は主語名詞句を限定せずに分析を行う。

表 6 autour de と共起する organiser の受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (1733, 13.24%)	迂言的受動文 (11354, 86.76%)
s'être organisé (e) (s) autour de 1 (100%)	avoir été organisé (e) (s) autour de 0 (0%)
s'est organisé (e) autour de 32 (9.67%)	a été organisé (e) autour de 299 (90.33%)
se sont organisé (e) s autour de 197 (35.18%)	ont été organisé (e) s autour de 363 (64.82%)

s'était organisé(e) autour de 5 (0.17%)	avait été organisé(e) autour de 3000+ (99.83%)
s'étaient organisé(e)s autour de 4 (0.13%)	avaient été organisé(e)s autour de 3000+ (99.87%)
se fut organisé(e) autour de 0 (0%)	eut été organisé(e) autour de 0 (0%)
se furent organisé(e)s autour de 0 (0%)	eurent été organisé(e)s autour de 0 (0%)
se sera organisé(e) autour de 1 (1.64%)	aura été organisé(e) autour de 60 (98.36%)
se seront organisé(e)s autour de 1 (0.74%)	auront été organisé(e)s autour de 134 (99.26%)
se soit organisé(e) autour de 2 (50%)	ait été organisé(e) autour de 2 (50%)
se soient organisé(e)s autour de 0 (0%)	aient été organisé(e)s autour de 0 (0%)
se fût organisé(e) autour de 0 (0%)	eût été organisé(e) autour de 0 (0%)
se fussent organisé(e)s autour de 0 (0%)	eussent été organisé(e)s autour de 0 (0%)
se serait organisé(e) autour de 1 (50%)	aurait été organisé(e) autour de 1 (50%)
se seraient organisé(e)s autour de 0 (0%)	auraient été organisé(e)s autour de 0 (0%)
s'étant organisé(e)(s) autour de 0 (0%)	ayant été organisé(e)(s) autour de 390 (100%)
s'organisa autour de 2 (9.09%)	fut organisé(e) autour de 20 (90.91%)
s'organisèrent autour de 1 (0.12%)	furent organisé(e)s autour de 824 (99.88%)
s'organisera autour de 1176 (37%)	sera organisé(e) autour de 2003 (63%)
s'organiseront autour de 310 (19.77%)	seront organisé(e)s autour de 1258 (80.23%)

以上の結果は autour de を伴う (s')organiser の数を示しているため、以下の分析では主語名詞句を、colloque や journée のときに自発性が感じられないものに限定して分析を行う。以下は共起する副詞句の一覧である。

【受動的用法】 副詞句が何も付かない例 (44 例、88%)

【受動的用法】 場を表す副詞句の例 (1 例、2%) :

- (96) Des petits festoù-noz se sont organisé autour des sonneurs, *à la salle des fêtes et sur la place de l'Église.*

【受動的用法】 目的を表す副詞句の例（2例、4%）：

- (97) Ces dix séances se sont organisées autour de nombreux jeux, avec plusieurs accessoires (frites, toboggan, bouées...) mis en place par les maîtres-nageurs, *pour le plus grand plaisir des enfants.*
- (98) L'ensemble des établissements du ministère s'est organisé autour de l'INSEP *pour créer des synergies entre nous* et nous avons des équipes projets avec des agents de l'établissement, explique Patrice Behague.

【受動的用法】 手段を表す副詞句の例（1例、2%）：

- (99) Ailleurs en revanche, des filières se sont organisées autour d'un marché noir du passage *en exploitant la misère des hommes.*

【受動的用法】 形式・様態を表す副詞句の例（3例、6%）：

- (100) Tous les jeux se sont organisés autour du thème « Chasse au trésor », *à partir des axes de travail de l'année.*

迂言的受動文の場合、受動的用法と副詞句の特徴や頻度に大きな差は見られなかった。そして *autour de* そのものの意味であるが、物理的に「～の周囲で」という意味を表す例が受動的用法で13例（26%）、迂言的受動文で17例（34%）であり、抽象的に関連を表すものが受動的用法で37例（74%）、迂言的受動文で33例（66%）であった。今回は副詞句が予め決まっており、且つ主語名詞句にもある程度の制限があったことから、あまり目立つ特徴は得られなかった。

4.2. EFFECTUER

他動詞 *effectuer* が最も頻繁に要求する直接目的補語は頻度順に *travail / recherche / stage / visite / opération* となるが、*travail / recherche / visite / opération* は対応する似た意味の動詞を持つことから (*travailler / rechercher / visiter / opérer*)、自発性が無いとは言い切れない。その点に於いて *stage* は対応する動詞が無いことから、自発性は感じられない。従って、次節ではこの名詞

について考察する。

4.2.1. stage

表 7 stage を主語にした受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (124, 48.63%)	迂言的受動文 (131, 51.37%)
stage(s) s'être effectué(s) 0 (0%)	stage(s) avoir été effectué(s) 0 (0%)
stage s'est effectué 27 (45%)	stage a été effectué 33 (55%)
stages se sont effectués 1 (1.75%)	stages ont été effectués 56 (98.25%)
stage s'était effectué 0 (0%)	stage avait été effectué 2 (100%)
stages s'étaient effectués 0 (0%)	stages avaient été effectués 1 (100%)
stage se fut effectué 0 (0%)	stage eut été effectué 0 (0%)
stages se furent effectués 0 (0%)	stages eurent été effectués 0 (0%)
stage se sera effectué 0 (0%)	stage aura été effectué 0 (0%)
stages se seront effectués 0 (0%)	stages auront été effectués 1 (100%)
stage se soit effectué 0 (0%)	stage ait été effectué 4 (100%)
省略	
stage(s) s'étant effectué(s) 0 (0%)	stage(s) ayant été effectué(s) 3 (100%)
stage s'effectua 0 (0%)	stage fut effectué 0 (0%)
stages s'effectuèrent 0 (0%)	stages furent effectués 0 (0%)
stage s'effectuera 69 (75%)	stage sera effectué 23 (25%)
stages s'effectueront 27 (77.14%)	stages seront effectués 8 (22.86%)

colloque / journée / autour de と今までは受動的用法と迂言的受動文の間に実例数の大きな差があったが、今回はほぼ同等という結果になった。以下に共起する副詞句の特徴を分析する。

【受動的用法】副詞句が何も付かない例（0 例、0%）

【受動的用法】形式・様態を表す副詞句の例（11 例、22%）：

- (101) Le stage s'est effectué *dans une ambiance conviviale et sereine*.
- (102) Ce stage s'est effectué *dans le cadre de travaux pratiques délocalisés*, qui mettent les élèves en situation réelle pour leur futur métier.
- (103) Le stage s'effectuera *en petit groupe*.

【受動的用法】対象・関連を表す副詞句の例（6 例、12%）：

- (104) A travers différents exercices de composition et de style sur les ombres, les gestes, les postures, les sentiments ou l'immobilité (dont certains étaient même utilisés par le mime Marceau), le stage s'est effectué *autour d'un vrai travail sur la technique*.
- (105) *Sur les thèmes poney, cirque, théâtre, danse*, ce stage s'effectuera à Maurs (Cantal).
- (106) Ce stage s'effectuera à ces horaires : de 10h à 10h45 *pour les 18 mois à 3 ans* et de 11h à 12h *pour les 4 ans et plus*.

【受動的用法】時を表す副詞句の例（16 例、32%）：

- (107) Le stage s'est effectué *de fin mars à fin mai* en alternance à l'IRTS et sur le terrain.
- (108) Ce stage s'effectuera *vendredi 2, de 20h à 22h, samedi 3, de 10h30 à 12h30 (sustentation en commun de 12h30 à 14h) et de 14h à 18h ; dimanche 4 septembre, de 10h30 à 12h30 (sustentation en commun de 12h30 à 14h), de 14h à 17h30, restitution de 17h30 à 18h*.
- (109) Le prochain stage s'effectuera *le 11 mai* avec Yanis Marshall, un chorégraphe qui fait le buzz actuellement puisque Beyoncé et autres grandes stars américaines publient ses vidéos de danse sur Internet.

【受動的用法】 動作主を表す副詞句の例 (13 例、26%) :

- (110) Le stage s'est effectué *sous la direction de Nouredine Bouiri, de son fils Redouane et de Christophe Billet, tous trois éducateurs*, tandis que Jacky Girardot, entraîneur des seniors, assurait la coordination et que Véronique Pagny, secrétaire du club, gérait l'intendance, en l'occurrence la préparation d'un goûter qui ponctuait chaque séance.
- (111) Ce stage s'effectuera *en présence de Sandra Sevilla, championne du monde*.
- (112) Ce stage s'est effectué *sous la conduite de Charly Menigoz*.

【受動的用法】 場を表す副詞句の例 (19 例、38%) :

- (113) Les stages s'effectueront *en auberge de jeunesse, en hôtel de luxe, en crèche et dans une école internationale*.
- (114) Ce stage s'effectuera *en externat*.
- (115) Pour Alexis qui souhaite devenir conducteur d'engins dans les travaux publics, son stage s'est effectué *dans une entreprise cantonale « terrassement de Perthois »*.

迂言的受動文に於いても結果は以下の例を除きほぼ同じであった。

【迂言的受動文】 副詞句が何も付かない例 (6 例、12%)

【迂言的受動文】 目的を表す副詞句の例 (3 例、6%) :

- (116) Ce stage a été effectué au titre d'une bourse Erasmus reçue par l'école de Glandon, *pour s'ouvrir sur l'Europe et enseigner l'anglais* dès la maternelle.
- (117) Sans vouloir revenir sur la préparation de l'inter-saison faite de façon empirique en raison de l'absence d'un préparateur physique avec la cascade de lésions musculo-tendineuses ayant frappé de plein fouet pratiquement le plus clair des joueurs, ce stage sera effectué *dans le dessein de tout reprendre à zéro*.
- (118) Plusieurs stages seront effectués *afin d'assurer ce service périscolaire*.

迂言的受動文の場合、受動的用法と副詞句の特徴や頻度に大きな差は無く、唯一の相違点としては上記のように、目的を表す副詞句が付くということだけだった。

4.2.2. comment

次に、s'effectuer と共起する率の高かった comment を伴う例を見てみる。なお、今回は疑問副詞の comment を用いている例のみを対象とし、間接疑問文は除外している。

表 8 comment と共起する effectuer の受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (28, 63.64%)	迂言的受動文 (16, 36.36%)
comment s'être effectué(e) (s) 0 (0%)	comment avoir été effectué(e) (s) 0 (0%)
comment s'est effectué(e) 9 (75%)	comment a été effectué(e) 3 (25%)
comment se sont effectué(e) s 5 (71.43%)	comment ont été effectué(e) s 2 (28.57%)
省略	
comment s'effectuera 11 (73.33%)	comment sera effectué(e) 4 (26.67%)
comment s'effectueront 3 (30%)	comment seront effectué(e) s 7 (70%)

他の場合と異なり、実例の数はあまり多くはないとは言え、迂言的受動文より受動的用法が僅かに多いという結果になった。副詞句に関しては、疑問副詞 comment がある疑問文を検索にかけたことと、見つかったとしても次例のように副詞句か形容詞句が見分けのつかないもののみであったため、今回は副詞句の該当例は無しとする。

(119) Comment s'est effectué le passage de générations chez Zagato ?

従って本節に於いては両構文間で比較できる要素は主語名詞句のみとなる。先ず受動的用法であるが、僅か 28 例の中にも主語名詞句に多少の傾向が見られた。以下に先ず頻度順、そしてアルファベット順に挙げる。

【4 例、14.29%】:

- (120) PASSAGE : Comment s'est effectué *le passage* de critique de cinéma dans ce journal à la fonction de directeur artistique d'un festival ?

【3 例、10.71%】:

- (121) CHOIX : Comment s'est effectué *le choix* des 400 images ?
(122) PARTAGE : Comment s'effectuera *le partage* des compétences avec les services de l'État qui resteront opérationnels ?
(123) REPORT : Comment s'effectuera *le report* du manque à gagner pour France Télévision ?

【2 例、7.14%】:

- (124) CONTACT : Comment se sont effectués *les premiers contacts* avec Vitré ?
(125) RETOUR : Comment s'est effectué *le retour* en Italie ?

【1 例、3.57%】:

- (126) ACHAT : Comment se sont effectués *les premiers achats* en euro ?
(127) ACQUISITION : Comment s'effectueront *vos acquisitions* ?
(128) CALCUL : Mais comment s'effectueront *les calculs intermédiaires* ?
(129) CESSION : Et comment s'effectuera *la cession* ?
(130) CONTRÔLE : Dans ce contexte, comment s'effectueront *les contrôles* à l'entrée et à la sortie ?
(131) COORDINATION : Quels seront les effectifs qui seront alloués à cette nouvelle chaîne et comment s'effectuera *la coordination* entre les différentes entités du service public ?
(132) IMPOSITION : On peut aussi évoquer le cas des particuliers employeurs : comment s'effectuera *l'imposition* de leurs employés (garde d'enfants, ménage...) ?
(133) KISS : Comment s'effectuera *le « kiss » historique* sur le balcon ?
(134) RÉPARTITION : Comment s'effectuera *la répartition* des ventes entre les modèles de Nissan et ceux de Honda ?

- (135) SELECTION : Comment s'effectuera *la selection* des operations entre celles assurées pour le compte de l'État et celles pour le compte propre ?
- (136) SORTIE : Comment s'effectuera *leur sortie* ?

次いで迂言的受動文に於いても、僅か 16 例の中に多少の傾向が若干見られた。以下に先ず頻度順、そしてアルファベット順に挙げる。

【6 例、37.5%】:

- (137) CONTRÔLE : Comment seront effectués *les contrôles* des producteurs et de leurs déclarations de mise sur le marché ?

【2 例、12.5%】:

- (138) CHOIX : Comment a été effectué *le choix* de ces quatorze noms ?

【1 例、6.25%】:

- (139) BILAN : Comment sera effectué *le bilan* de ces contrats ?
- (140) CONTACT : Comment ont été effectués *les contacts* ?
- (141) DIAGNOSTIC : Comment a été effectué *ce diagnostic piscicole* ?
- (142) RECENSEMENT : Comment sera effectué *ce recensement* ?
- (143) REMBOURSEMENT : Comment sera effectué *le remboursement* ?
- (144) RENVOIS : Comment seront effectués *ces renvois* ?
- (145) SONDAGE : Comment a été effectué *ce sondage* ?
- (146) TRAVAIL : Comment sera effectué *ce travail* ?

確かに両構文間に於いて主語名詞句の傾向が見られたものの、実例の数が少ないため両構文間の決定的な差異と断定できそうなものは見えてこないように思われる。強いて 1 つ挙げるならば動詞句と疑問符の間の語数が受動的用法に於いては平均 8.18 語、迂言的受動文では平均 5.44 語であるということだけであり⁴⁶⁾、双方に大きな隔たりも無かった。また、主語名詞句の語数の問題に関しては本研究では取り扱わないため、comment と共起する (s')effectuer の問題に関する記述はここで留めておく。

4.3. ÉCRIRE

他動詞 écrire が最も頻繁に要求する直接目的補語は頻度順に livre / lettre / article / roman / texte となり、どれも無生であることからどの名詞にも自発性は感じられないのだが、受動的用法の実例が殆ど見つからなかった。考察に値するだけの実例数を得るために上位から頻度順に検索をかけていったところ、28位の chapitre である程度数が得られたため、今回はこの名詞句について分析を行う。

4.3.1. chapitre

表9 chapitre を主語にした écrire の受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (9, 16.07%)	迂言的受動文 (47, 83.93%)
chapitre(s) s'être écrit(s) 0 (0%)	chapitre(s) avoir été écrit(s) 0 (0%)
chapitre s'est écrit 1 (5%)	chapitre a été écrit 19 (95%)
chapitres se sont écrits 6 (31.58%)	chapitres ont été écrits 13 (68.42%)
chapitre s'était écrit 0 (0%)	chapitre avait été écrit 1 (100%)
chapitres s'étaient écrits 0 (0%)	chapitres avaient été écrits 0 (0%)
chapitre se fut écrit 0 (0%)	chapitre eut été écrit 0 (0%)
chapitres se furent écrits 0 (0%)	chapitres eurent été écrits 0 (0%)
chapitre se sera écrit 0 (0%)	chapitre aura été écrit 1 (100%)
chapitres se seront écrits 0 (0%)	chapitres auront été écrits 0 (0%)
chapitre se soit écrit 0 (0%)	chapitre ait été écrit 1 (100%)
chapitres se soient écrits 0 (0%)	chapitres aient été écrits 0 (0%)

chapitre se fût écrit 0 (0%)	chapitre eût été écrit 0 (0%)
chapitres se fussent écrits 0 (0%)	chapitres eussent été écrits 0 (0%)
chapitre se serait écrit 0 (0%)	chapitre aurait été écrit 1 (100%)
chapitres se seraient écrits 0 (0%)	chapitres auraient été écrits 0 (0%)
chapitre(s) s'étant écrit(s) 0 (0%)	chapitre(s) ayant été écrit(s) 0 (0%)
chapitre s'écrivit 0 (0%)	chapitre fut écrit 3 (100%)
chapitres s'écrivent 0 (0%)	chapitres furent écrits 1 (100%)
chapitre s'écrira 2 (33.33%)	chapitre sera écrit 4 (66.67%)
chapitres s'écriront 0 (0%)	chapitres seront écrits 3 (100%)

chapitre を主語に据えた場合、受動的用法の実例は殆ど見つからず、迂言的受動文の実例が圧倒的に多いことがわかる。

【受動的用法】形式・様態を表す副詞句の例（3例、33.33%⁴⁷⁾）：

- (147) Les premiers chapitres se sont écrits *sous la bannière de la Pédale mancelle*, le club qui réunissait les débuts des deux coureurs, compagnonnage poursuivi de loin en loin.
- (148) L'annonce, il y a dix jours, de son retrait de la direction opérationnelle de sa société, dont il conserve la présidence non exécutive, n'est qu'un nouvel épisode d'une saga dont les premiers chapitres se sont écrits *bien loin de l'univers de la cosmétique*.
- (149) Le prochain chapitre s'écrira *sans moi*.

【受動的用法】場を表す副詞句の例（1例、11.11%）：

- (150) Dimanche (14h TSR1) à *Abu Dhabi*, le dernier chapitre s'écrira et le nom du champion du monde sera enfin connu.

【受動的用法】時を表す副詞句の例（6 例、66.67％）：

- (151) Un nouveau chapitre s'est écrit *hier*.
- (152) Les premiers chapitres se sont écrits *début 2015*.
- (153) Cette assemblée générale constituera un épisode complémentaire d'un feuilleton dont les précédents chapitres se sont écrits *à la fin du mois de mars*.

受動的用法に表れる副詞句は迂言的受動文にも見られるものばかりである。逆に迂言的受動文に固有なものは以下の通りである。

【迂言的受動文】動作主を表す副詞句の例（14 例、29.79%⁴⁸⁾）：

- (154) Une histoire familiale dont le premier chapitre a été écrit en 1946 en Seine-et-Marne *par Jean Delphin, le père de l'actuel PDG Alain Pernot* et qui a bien failli disparaître, sans la détermination d'Alain et de son frère Guy.
- (155) Le septième et dernier chapitre a été écrit en commun *avec les collégiens allemands*, lors du séjour des Français à Fuldata il y a quinze jours.
- (156) Au cours du premier trimestre, deux chapitres ont été écrits *par les élèves du cours élémentaire avec l'aide d'Isabelle Leseigneur* ; ces mêmes élèves ont réalisé des maquettes sous la conduite de Sylvie Corlouër et qui serviront par la suite à illustrer le livre.

(s')écrire の問題に関しては分析対象としたものの、考察を述べるには実例数が極端に足りないためこれ以上の記述を行なうことができない。他の動詞と唯一異なるのは、動詞が要求する名詞句がかなり具体的な物に限られ、動詞の事行がより直接的に対象物に働きかけるということである。この点に関しては次章の分析結果に於いて詳しく述べる。

4.4. DIRE

se dire は表 3 に於いて数が 5 例未満であったが、ce qui を伴う実例が多く見つかり、且つ先行研究でもあまり取り上げられていなかった動詞であることから本節にて扱う。

4.4.1. ce qui

表 10 ce qui と共起する dire の受動的用法・迂言的受動文の頻度一覧

受動的用法 (329, 6.89%)	迂言的受動文 (4444, 93.11%)
ce qui s'être dit 0 (0%)	ce qui avoir été dit 0 (0%)
ce qui s'est dit 114 (3.66%)	ce qui a été dit 3000+ (96.34%)
ce qui s'était dit 18 (2.07%)	ce qui avait été dit 850 (97.93%)
ce qui se fut dit 0 (0%)	ce qui eut été dit 0 (0%)
ce qui se sera dit 26 (30.23%)	ce qui aura été dit 60 (69.77%)
ce qui se soit dit 0 (0%)	ce qui ait été dit 0 (0%)
ce qui se fût dit 0 (0%)	ce qui eût été dit 0 (0%)
ce qui se serait dit 19 (46.34%)	ce qui aurait été dit 22 (53.66%)
ce qui s'étant dit 0 (0%)	ce qui ayant été dit 0 (0%)
ce qui se dit ※ 直説法現在と同形のため計測不可能。	ce qui fut dit 242
ce qui se dira 152 (36.02%)	ce qui sera dit 270 (63.98%)

(s')organiser や (s')écrire と同様に迂言的受動文の方が圧倒的に多いという結果になった。以下に共起する副詞句を比較し考察する。

【受動的用法】副詞句が何も付かない例 (12 例、24%)

【受動的用法】形式・様態を表す副詞句の例 (3 例、6%) :

- (157) Si d'aventure ce qui s'est dit à *travers cette rumeur* était une vérité, le gouvernement camerounais aurait déjà porté l'information à la France.

- (158) 30% affirment ne pas du tout s'y intéresser et 33% n'entendent pas le regarder mais se « tenir au courant de ce qui se dira *en lisant ou en écoutant les commentaires*. »
- (159) La question est encore à l'étude, mais le Cored envisage de mettre sur pied une brigade de veille ou une « situation room » le jour du scrutin, en collaboration avec le Conseil national de régulation de l'audiovisuel (Cnra), qui devrait pouvoir mettre à la disposition du Cored ses moyens techniques de monitoring, de façon à ce que le Cored ait accès à tout de façon à ce que le Cored ait accès à tout ce qui se dira sur nos radios et autres chaînes de télévision, *avec la possibilité de pouvoir alerter la rédaction centrale concernée*, en temps réel.

【受動的用法】対象・関連を表す副詞句の例（1例、2%）：

- (160) Je vais maintenant commencer autre chose, ce n'est pas une reconstruction mais je vais surveiller, suivre tout ce qui se dira *sur Abdeslam*.

【受動的用法】場を表す副詞句の例（10例、20%）：

- (161) Les enregistrements sonores vont aussi permettre de savoir ce qui s'est dit *entre l'avion accidenté et son ailier*, le F / A-18 monoplace qui le suivait et qui a pris de l'altitude pour sortir de la couche nuageuse juste avant le crash.
- (162) Par exemple, on aurait aimé savoir ce qui s'était dit *dans la voiture entre l'hôtel et la Concorde*.
- (163) Tout ce qui se dira *sur la scène politique fédérale* sera plus encore interprétable par rapport à l'objectif supposé du moment : faire des voix.

【受動的用法】動作主を表す副詞句の例（3例、6%）：

- (164) Samedi matin, bien qu'il n'y soit nullement obligé, puisqu'il s'agit d'un différent d'ordre privé, le maire de la commune décide de tenter une médiation, faisant au passage acter de ce qui se sera dit *par une huissière*.

- (165) Et qui sait ce qui se sera dit, après ces prières publiques, *entre les trois hommes*, sous les voûtes d'un des joyaux de la cité du Vatican, la charmante Casina Pio IV, un extraordinaire petit palais du XVI^e siècle à deux pas du jardin triangulaire où ils se seront recueillis.
- (166) Les élus du secteur prêteront ainsi une oreille attentive, aujourd'hui, à ce qui se dira sur leur territoire au comité interministériel du Grand Paris, *sous l'égide du Premier ministre, Manuel Valls*.

【受動的用法】時を表す副詞句の例（23 例、46%）：

- (167) Ce qui ne les empêche pas de suivre d'une oreille et de poser des questions ou de faire des interventions qui montrent qu'ils n'ont pas suivi ce qui s'est dit *avant*.
- (168) En outre, selon ce qui se serait dit *lors de la rencontre du président Poutine avec le prince Bandar*, celui-ci aurait affirmé que Riyadh était prêt à « aider » Moscou « à jouer un rôle plus important au Moyen-Orient au moment où les États-Unis se désengagerait de la région » ont indiqué des diplomates dans la capitale russe.
- (169) C'est le conseil régional qui doit faire ce choix et je serai très attentif à ce qui se dira *pendant la campagne des régionales*.

他の動詞の場合と異なり、迂言的受動文で表れる副詞句の種類は受動的用法と変わらず、数に大きな差が見られなかった。しかし実例を分析するなかで、文中に於ける *ce qui* の統語的役割に特徴が見られたため、以下に挙げる。

【受動的用法】*ce qui* が主語名詞句として機能している例（3 例、6%）：

- (170) *Ce qui* s'est dit ou pas dit à l'occasion de ce déjeuner **est, au fond, de peu d'importance**.
- (171) La séance commence par une promesse : tout *ce qui* se dira pendant la rencontre **restera confidentiel**.

【迂言的受動文】*ce qui* が主語名詞句として機能している例（12 例、24%）：

- (172) Tout *ce qui* a été dit **m'a heurté profondément**.
- (173) Vient ensuite le moment où *ce qui* a été dit **est écrit par le manager dans un document** qui fera référence auprès des RH et de la

hiérarchie.

- (174) *Ce qui* a été dit **a été fait**, et ce qui a été fait est conforme à ce qui a été dit.

迂言的受動文に於いて *ce qui* が主語名詞句として機能している 12 例のうち、9 例は (173, 174) のように迂言的受動文が後続するものであった。なお、受動的用法が後続する例は見つからなかった。以上のことから、(se) dire については主語名詞句や副詞句ではなく、*ce qui* 自体の統語的役割が両構文の差異の 1 つだと言うことができるのではないだろうか。

4.5. 文脈による差異

最後に、今までの分析例の中で唯一、出現数に於いて受動的用法が迂言的受動文を上回った (s') effectuer について、文脈による両構文の差異を考察する。文脈という観点は構文の定義として明文化が難しい曖昧な要素であり、研究論文として必ずしも適切とはいえないものである。しかし、主語名詞句や副詞句の条件を揃えても明確な差異が観察されなかったことに加え、先行研究に於いて対象とされてこなかった観点であることから、今後の研究の示唆とする為に本研究にて扱う。

【時・場・動作主を表す副詞句が共通している例】

- (175) TITRE : « Le taekwondo au top ; Carquefou »

Cinq compétiteurs du club carquefolien de l'USJA taekwondo et hapkido ont participé récemment aux championnats de France cadet et espoir à Clermont-Ferrand (Puy-de-Dôme). Il s'agit de Raphaël Potier (-44 kg) et Lucas Jeannin (-53 kg) dans la catégorie cadet, Jean-Rémi Eng (-58 kg) Théo Jeannin et Jean-Charles Cotti-neau (-74 kg) en espoir. Sous l'égide de Jean-Paul Eng, entraîneur et fondateur du club carquefolien, les compétiteurs ont porté haut les couleurs de la ville. Et particulièrement le jeune Lucas Jeannin qui a remporté le titre de vice-champion de France. Cette belle réussite est due aux nombreux entraînements hebdomadaires ainsi qu'aux stages organisés au sein des Pays de la Loire. **Un premier stage s'est effectué au club de La Garnache (Vendée) avec**

Anne-Caroline Graff (vice-championne olympique) en début de saison. Puis l'entraîneur national Hans Zohin est venu à Carquefou. À noter que les meilleurs athlètes seront réunis lors des championnats de France, les samedi 2 et dimanche 3 février à Lyon, avec une équipe conquérante de l'USJA : Claire Stark, Théo Jeannin et Jean-Charles Cottineau pour les juniors ; Jean-Rémy Eng, Karl et Max Tchokomemy pour les seniors.

フランス西部の Carquefou という町にある USJA という道場の複数の門下生が武術の大会に参加したことを伝える記事である。特に Lucas Jeannin という選手の功績が中盤以降で述べられ、その功績に至るまでの特訓の過程の中で stage に関する記述があり、著名な講師を招いての stage が準優勝の秘訣であるといった趣旨である。この様に、記事の主題である準優勝という功績に繋がった stage に関する記述であることから、stage そのものの描写に重きが置かれていると読み取ることができる。また、stage に於いて指導を行ったトレーナーという動作主の存在は確認できるが、あくまで指導者の立場であり、stage そのものの開催に携わっていないと推測される点も、動作主性のより低い受動的用法が選ばれている要因であると推測できる。

(176) TITRE : « USCM : l'école de football à plein régime »

Depuis le 11 septembre, l'école de football de l'Union sportive Crozon-Morgat (USCM) a repris ses activités. Les séances ont lieu tous les mercredis et samedis après-midi à partir de 14h au stade municipal. Les effectifs en débutants, poussins et benjamins sont en évolution, de nombreux enfants ayant rejoint les rangs du club. Chaque catégorie comprend 25 jeunes désireux d'apprendre les bases de ce sport collectif. Au total, pour ce début de rentrée, le club compte 75 enfants dont trois filles, les inscriptions restant ouvertes pour les retardataires. L'encadrement est assuré par cinq éducateurs dont quatre qui viennent de passer avec succès le stage d'initiateur 1^{er} degré de football. **Ce stage a été effectué à Châteaulin du 2 au 6 septembre sous la responsabilité des cadres techniques de la ligue de Bretagne.** À présent, Olivier Corre et Eric Petit ont la responsabilité des poussins, Jean-Louis Gaud et Da-

vid Lanvoc des benjamins et Martin Thibault des jeunes du foot à 7. L'école de football reçoit avec plaisir tous les parents bénévoles susceptibles de donner un coup de main aux encadrants des diverses catégories.

USCM というサッカー教室の練習再開を伝える記事であり、内容は練習の様子を伝えることに終始している。stage に関する記述は指導者が受けたものに関する説明であり、記事が取り上げているサッカー教室とは異なる団体が実施したものである。これは記事の主題を補足する内容であって直接的に記事の内容に関係のあるものではなく、stage そのものの描写に重きを置こうとしていないと読み取ることができる。また、stage 自体がブルターニュのサッカーリーグの cadres techniques の責任のもとで行われたということから、stage に対する cadres techniques たちの関わり合いが強く感じられていることも、動作主性のより高い迂言的受動文が選ばれている要因であると推測できる。加えて、前文に迂言的受動文 « L'encadrement est assuré par cinq éducateurs [...] » が用いられていることもまた、構文の統一性の観点から迂言的受動文を選択したとも推測できる。

【時・場を表す副詞句が共通している例】

(177) TITRE : « Les sonneurs se perfectionnent »

Les Sonneurs du Haut Cantal ont commencé l'année en fanfare. Le groupe de trompe de chasse a investi, le temps d'une journée, le Centre d'enseignement musical intercommunal (CEMI) du Pays de Saint-Flour. Dans une ambiance décontractée, mais studieuse, les sonneurs ont pu profiter d'un stage de perfectionnement. « **Cette année le stage s'est effectué en interne.** L'année prochaine, il sera sans doute ouvert à d'autres formations », a indiqué Jean-Jacques Royer, président de la formation. Trois moniteurs sont intervenus : Patrice Coudert et Jacques Delrieux, de 2^e catégorie, et Philippe Dubois, de 4^e catégorie. Les stagiaires ont été répartis en trois groupes distincts, lesquels ont donc pu profiter des conseils de chaque « professeur ». « Ce sont des peintures au niveau de la trompe. Ils sont moniteurs officiels sur le plan national. En plus, ils

sont très pédagogues. » Leur enseignement a porté essentiellement sur les attaques de fanfares, la colonne d'air (inspiration, compression) et la diction. Le maître mot de cette journée : « Sonner sans forcer ». Pour clore ce stage et mettre en application l'enseignement inculqué, moniteurs et stagiaires se sont retrouvés le lendemain à l'occasion d'une partie de chasse.

フランス南東部の Haut Cantal という町のラッパ隊の育成を伝える記事であり、序盤から最後まで stage についての記述である。そのため、「その年は interne で行われた」という描写は記事の主題に関するものであるから、受動的用法が選ばれていると推測できる。しかし、(176)では統一性による構文選択の可能性を示唆したものの、今回は後続する文 « L'année prochaine, il sera sans doute ouvert à d'autres formations » と構文が同一ではないため、選択の理由としてはやや根拠の弱いものである可能性がある。

- (178) TITRE : « Les joueurs d'Espoir foot 88 ont retrouvé le chemin des terrains »

La reprise estivale du club d'Espoir foot 88 a débuté lundi 30 juillet, à 19 heures, au stade de Ceignac. Ils étaient plus d'une trentaine (seniors et U19) à rechausser les crampons pour ce premier entraînement de la saison sous les ordres de Bruno Laviale accompagné d'Anthony Vergnes. Ce tandem coachera l'équipe 1 senior qui évoluera au plus haut niveau départemental en Excellence district. Le président du club, Jean-Philippe Mouysset, a participé à l'entraînement et il en a profité pour rappeler aux joueurs les objectifs de la saison à venir. Durant tout le mois d'août, il y aura trois entraînements par semaine, les lundis, mercredis et vendredis, et des matches amicaux compléteront la préparation estivale. Petite nouveauté cette saison, **un stage a été effectué à Canet-de-Salars le week-end du 4 et 5 août**. Ce stage s'est terminé par un match amical contre l'équipe locale. Espoir foot 88 tient à remercier la municipalité de Canet-de-Salars qui a mis à disposition son stade et ses vestiaires pour ces deux journées sportives. Concernant les catégories de jeunes, les U19 (nés en 1994 et 1995) et les U17 (nés en 1996

et 1997) reprennent mardi 21 août à Ceignac à 18h45, les U15 (nés en 1998 et 1999) et les U13 (nés en 2000 et 2001) reprennent le samedi 18 août à 9h45, au stade de Ceignac. Enfin, pour les très jeunes (nés de 2002 à 2006), la reprise s'effectuera samedi 1^{er} septembre. Chaque joueur et joueuse bénéficie de 3 séances d'entraînement avant de s'engager. Pour les prises de licences, le secrétaire du club Patrick Bel fera des permanences à la Maison des associations, rue de l'Église à Baraqueville, les jours suivants de 14 heures à 16 heures : samedi 11 août, samedi 18 août et samedi 25 août. Tous les licenciés sont invités à venir retirer ou à ramener leur demande de licence avec la photo d'identité. Pour les nouveaux licenciés il faut prévoir une photocopie de la carte d'identité ou du livret de famille et une photo récente. Pour avoir plus d'informations sur le club d'Espoir foot 88, consulter son site internet <http://efc88.footeo.com/>

Espoir foot 88 というサッカーチームの夏季練習再開を伝える記事である。stage についての記述は当該の時期の新しい試みとしてだけ存在しており、その後に stage についての描写は無い。その為、記事全体の主旨の説明というよりも補足的な情報であることから、迂言的受動文が選ばれていると推測できる。しかし、(177)と同様に後に続く文 « Ce stage *s'est terminé* par un match amical contre l'équipe locale. » と構文が同一ではないため、構文の統一性はここでも無視されていると思われる。

【場を表す副詞句が共通している例】

- (179) TITRE : « École. Une formation Comenius sur le jardin pour Béatrice Colleu »

Béatrice Colleu, directrice de l'école publique, vient de suivre un cursus de formation financé par un fonds européen qui s'adressait à un public issu de l'éducation nationale, dans le cadre du programme Comenius. **Ce stage s'est effectué à Padoue (Italie).** Le thème était « Les jardins, monuments vivants. Pédagogie du patrimoine des jardins en Europe ». À cette formation, il y avait une vingtaine de participants, venus de toute l'Europe, plus la Turquie. Béatrice Col-

leu s'est initiée à toutes les caractéristiques du jardin ; aspects scientifiques, culturels, mais également artistiques, à travers les photos. « J'ai choisi cette formation car le jardin est universel et accessible à tous les âges. C'est un fabuleux support pédagogique qui permet d'aborder tous les thèmes scolaires : l'histoire, la géographie, le français et les sciences. En plus, créer un jardin demande peu de moyens et est accessible à tous. » Et d'ajouter : « J'ai aussi pu, au cours de ce stage, découvrir le visage de l'Éducation nationale de plusieurs pays d'Europe, pouvant ainsi confronter nos difficultés et nos similitudes. Tout cela me donne l'envie de continuer l'aventure. Ainsi, l'année prochaine, j'espère pouvoir monter un projet Come-nius dans l'école qui s'adressera aux élèves de la maternelle au CM2. »

園芸に関する stage を受けた小学校の校長先生についての記事である。後半は先生の語りが主なものであるが、前半は stage の主旨や参加者といった、stage そのものに関する記述であり、当該の文はその文脈の中に出てきている。従って、記事前半部の主旨の説明であることから、受動的用法が選ばれていると推測できる。

(180) TITRE : « Une association très active »

Henry Barthélémy, représentant le Conseil général et Guy Delpuech, représentant la municipalité sanfloraine, ont assisté à l'assemblée générale du Vélo club du pays de Saint-Flour, présidé par André Pezet. Les dirigeants ont présenté un bilan étoffé de l'association qui compte 71 membres partagés entre compétitions routes, VTT DH et cycloport. L'année a été riche avec l'organisation des championnats du Cantal, des championnats d'Auvergne, une étape du tour du Cantal cadet, le prix de la ville de Saint-Flour, l'étape sanfloraine et le souvenir Alfred-Rancillac. Lilian Couillez, Antoine et Élie Couderc, Cédric Cornet, Olivier Bouquier, Thibault Delpeuch, Christophe Deis et Thierry Tufféry ont été félicités pour leurs victoires et podiums. Pour leurs bons résultats ont été mentionnés Cyril Tailland, Mickael Gémardin, Jérémie Lacoste, Francis Barbance, Lionel Chassagnol,

Francis Larousse et tous les cyclospor­tifs qui ont porté le maillot sanflorain sur de nombreuses épreuves. Parmi les particularités de l'année, **un stage a été effectué en Espagne** et trois coureurs ont couru au Cameroun avec l'équipe du Cantal. En VTT descente, le rapport fait étalage d'une section vivante dynamisant le club. Le groupe de DH compte une quinzaine de licenciés. Les pilotes ont pris part à onze courses régionales, quatre coupes de France, le championnat de France, une coupe d'Europe et trois coupes du Monde. Avec, en valeur d'exemple, Arthur Parret, 14^e de la coupe de France, les jeunes se hissent vers le haut du tableau. Quatre victoires sont à noter pour Valentin Jauriac, Alexis Gueuse et Arthur Parret au Lioran et Benoît Buisson à Super Besse. Antoine Duclos, Thibault Hugon, Thibault Gaillard, Antoine Secondy, Quentin Farges, Julien Froment, Jérémy Rolland et Thomas Soucheyre ont aussi bien représenté le club. La section, de mieux en mieux structurée, avec un encadrant sportif, un préparateur physique et un mécanico, va aborder la saison prochaine avec de fortes ambitions. André Pezet a conclu en remerciant « tous les acteurs qui ont permis au Vélo club de réaliser une saison fantastique et d'avoir une nouvelle fois valorisé son image ».

各種大会で優秀な成績を修めた自転車クラブを紹介する記事である。個人名が多く挙がっているように、大半は競技者の獲得したタイトルを紹介している中で、stage に関する記述が出てくる。これはあくまで当該の年にあった特別なことの1つとして stage を紹介しているだけであり、その後に stage に関する記述もないことから、記事全体の主旨とは関係の無い情報が挿入されている。従って、迂言的受動文が用いられていると考えることができる。また、当該の文の前文と前々文に於いて迂言的受動文 « [...] Christophe Deis et Thierry Tufféry *ont été félicités* pour leurs victoires et podiums. Pour leurs bons résultats *ont été mentionnés* Cyril Tailland, Mickael Gémardin, [...] » が用いられていることも、構文の統一性の観点から関係があるのかもしれない。

5. 分析結果

5.1. 話し言葉に於ける実例

第3章で示したように、先行研究では全く取り上げられることのなかった話し言葉を含む実例を相当数収集できたものの、点括相に置かれたと断言できる受動的用法は(181-183)のみであった。

- (181) (= 59) « *Comment s'est effectué votre rencontre avec le roman de Patricia Highsmith ?* » (ASC491 : p. 221)
- (182) (= 60) « *Comment s'est effectué le choix des autres acteurs ?* » (ASC498 : p. 88)
- (183) (= 61) « *Comment s'est effectué le travail avec les comédiens ?* » (ASC498 : p. 124)

コーパスの規模が限られていたのも原因と考えられるが、3例のどれもが同じ動詞、同じ副詞句を伴っていることから、話し言葉に於ける点括相の受動的用法の使用はかなり限られたものとなることが予想される。

5.2. 主語名詞句の特徴

ZRIBI-HERTZ (1982) や TSURUGA (1994) は主語名詞句の具体性に関して、結論としては tableau のような具体的な場合でも、décision のような非具体的な場合でも受動的用法のアスペクト制約解除が行われると述べていた。本研究に於ける考察としては、名詞が具体的な物であれば自動詞的用法の特徴でもある自発性が出にくいことと、4章で述べたように意味のつながりのある派生語としての動詞をもつ名詞句は自発性を感じさせてしまうことから、ZRIBI-HERTZ (1982) や TSURUGA (1994) の主張に加えて「対応する動詞形を持たないもの」という定義を加えることを提案したい。但し、(s')écrire の分析で示したように、例えば主語名詞句が具体物であっても実例数がかなり少ない動詞も存在するため、主語名詞句の具体性よりも、主語名詞句が自発的な解釈を与え得るかどうかの方がより重要なのではないと思われる。

5.3. 副詞的要素の特徴

今回は自作コーパスに於いて観察された特徴と、迂言的受動文との対比のな

かで傾向の見られた副詞句に重きをおいて分析を行った。先ず総論的に言えることは、特に迂言的受動文と対比した場合に於いて、受動的用法と共起する副詞句の種類が迂言的受動文のそれよりも少ないということである。そして、s'organiser や s'effectuer の場合のように、特定の副詞句を要求する傾向のある動詞の受動的用法が存在する。且つ迂言的受動文との対比において、他の例では迂言的受動文の実例が圧倒的に多い中で s'effectuer と comment の組み合わせのように、受動的用法の数が迂言的受動文を上回る場合があるということも確認できた。

5.4. 動作主的解釈

MELIS (1990) は、様態を表す副詞句を挿入することで動作主を想定できる解釈ができることから、受動的用法と判断するための試金石であると述べていた。本研究に於いても特に4章で示したように、受動的用法と様態を表す副詞句は共起し、且つ par を用いた動作主表現はあまり観察されなかったものの、それに準ずる sous la conduite de のような表現は用いられることがあったと示した。しかし、目的を表す副詞句に関しては観察されなかった。以上のことから、潜在的な動作主の存在を強く感じさせる par を伴う動作主表現や、強い意志を感じさせる目的表現と共起しにくいというのが、受動的用法が迂言的受動文と異なる点であると考えられる。

5.5. 迂言的受動文との対比

特定の動詞に於いて副詞句が共通した受動的用法と迂言的受動文を比較してみたところ、文脈において主語名詞句がどの程度重要であるかが、両構文間の使い分けの分岐点となることが見えてきた。つまり、文脈の中で主語名詞句が文章全体の主題となっていれば当然、その主語名詞句について詳細な説明を加える必要があり、その場合に「属性付与」の特徴を持つ受動的用法が好まれる。それに対して、主語名詞句があくまで文章中で補足的な役割しか果たしていない場合は、迂言的受動文が好まれる。また、非明示の動作主が動詞の事行に関わる度合いもまた、動作主性の問題から構文の選択に関わる可能性もある。

本研究で対象とする動詞の中で唯一、迂言的受動文よりも受動的用法の実例が多い動詞 (s')effectuer のみを対象としたため、点括弧に置かれた受動的用法を定義付けるにはやや弱いことは認めざるを得ない。しかし、先行研究に於いて文脈を考慮したものが無かったため、この点は今後の研究に繋がると言えるだろう。

6. おわりに

本研究では先行研究に於いて例外的に扱われてきた点括相の受動的用法について、対象とする動詞や主語名詞句についてある程度の制限は設けつつも実例を多く挙げることで、先行研究に於いて理論的に述べられてきた性質を記述的に明らかにすることができた。当該の用法と制約について明確な定義を述べるには至っていないものの、当該の用法が例外的ではなく、所々の条件が揃った下であれば現代フランス語として十分成立する表現方法であることを示すことができた。加えて、先行研究では考慮されていなかった観点から、特に迂言的受動文との違いを述べることができた。また、書き言葉だけに限らないものであることを示したことで、これからのこの分野に於ける研究を行う際に考慮すべき指標を示すことができたのは、他の先行研究には無い本研究独自の強みであると確信している。今後の研究に於いては今まで伝統的に扱われてきた動詞も含め、広い分野から収集した多くの実例に基づき、単文単位に偏らない文脈を考慮した分析を行いたい。

註

- 1) 本稿は2017年3月獨協大学大学院外国語学研究科に提出した修士論文『現代フランス語における受動的代名動詞のアスペクトについて』を書き改めたものである。なお、執筆にあたり、インフォーマントチェックを引き受けて頂いた Michèle MIZUBAYASHI 先生, Julien NEULAT 氏, Antoine RAMON 氏, Philippe VANNEY 先生の4名と、ご指導を頂いた青木三郎先生、小石悟先生、田中善英先生の3名に、心から感謝の気持ちを申し上げる。
- 2) *Cependant par Baucis le festin se prépare* (ZRIBI-HERTZ1982: p. 351)
- 3) 本研究としては本例に受動的な意味は無く、後述の自動詞的用法であると考える。
- 4) *Ainsi on a proposé* (Obenauer, 45 sv.) *d'insérer un trait « non ponctuel » dans le SV de la dérivation pronominale passive, qui expliquerait en 18, la possibilité de (a) et l'impossibilité de (b) (p. 121)*
- 5) *Exemple que nous accepterions, quant à nous, sans réserve. (id.)*
- 6) *Cette valeur durative ou de répétition sera d'autant plus fréquente avec les pronominiaux passifs à l'indicatif présent qu'à ce temps, eux seuls peuvent la donner, en l'absence de compléments adverbiaux, aux perfectifs. (id.)*
- 7) *Mais ce même présent indicatif prendra valeur « ponctuelle » dans une narration ou une hypothétique (id.)*
- 8) *Aux autres temps, la valeur ponctuelle sera encore plus fréquente (id.)*

- 9) [...] le pronominal « agent absent » a préférentiellement un aspect générique, où l'événement décrit se répète dans le temps (p. 131)
- 10) Prenant par exemple un verbe comme *discuter*, on peut très bien avoir [...] l'événement décrit est unique, daté, et les personnes qui ont discuté la question peuvent être parfaitement connues. (p. 132)
- 11) [...] on peut constater que la principale différence entre les séries (51 = *°Cette photo s'est prise* vendredi.) (et 39 = **Ces lunettes se sont nettoyées* hier à huit heures et quart.), et (52 = *La décision s'est prise* hier soir.), réside dans les propriétés sémantiques de NPS, qui en (51), (39), mais non en (52), dénote un objet concret du monde [...] (p. 360)
- 12) L'ensemble des remarques qui précèdent suffit toutefois à montrer que l'hypothèse [P6] (= SM connaît certaines restrictions aspectuelles), tel qu'elle est formulée plus haut, ne recouvre pas une restriction grammaticale spécifiquement attachée à SM. (pp. 360–361)
- 13) [...] on constate que la lecture réfléchie tend fréquemment à prendre le pas sur la lecture moyenne. Ceci est particulièrement net pour l'interprétation PROCÈS, aux temps accomplis [...] Ces cas sont à rapprocher des exemples (51), et illustrent la tendance qu'ont certains NPS (+concret, +humain) à susciter une analyse de la forme : NPS = NPO. (p. 362)
- 14) D'autre part, l'acceptabilité de SM aux temps accomplis, peut être améliorée par certains adverbiaux (de durée ?) [...] Ces variations sont conformes à la vocation non-accomplie de SM (cf. section I.2.), et ne témoignent pas en tout état de cause d'une différence grammaticale essentielle entre SM et le Passif. (p. 396)
- 15) La construction moyenne et les exemples passifs [31 = *Ce vin est bu* très frais.] montrent, en plus, que l'argument qui provoque cette contrainte aspectuelle peut être implicite. (p. 185)
- 16) La contrainte aspectuelle sert, donc, à réduire les possibilités d'ambiguïté en limitant l'emploi de la construction moyenne. [...] Il y a donc une distribution complémentaire partielle entre le moyen et le passif. (p. 174)
- 17) Ces exemples (= 11a : *On a nettoyé ces deux chemises avec deux détergents différents ; celle-ci s'est bien nettoyée, mais pas celle-là. / 11b : Cet hôtel est bizarre. Les chambres sont sales, on vous sert du pain rassis, de la bière éventée. Ce matin le café s'est bu froid ; ce soir il se boira peut-être tiède.*), étant exceptionnels, ne réfutent pas la justesse de la contrainte aspectuelle. Ce qu'il faut expliquer ce sont les circonstances exceptionnelles qui rendent de tels énoncés acceptables, et je me bornerai ici à faire quelques remarques à ce propos. (pp. 177–178)
- 18) Il est évident que l'emploi exceptionnel d'une construction verbale non transitive est rendu plus acceptable par la présence non exceptionnelle du même verbe dans la proposition précédente. Il s'agit sans doute de facteurs stylistiques qui font qu'une répétition du même verbe est désirable, malgré la différence de contexte aspectuel dans la deuxième proposition. Ceci est le cas dans les exemples [11] a [...] Il se peut que dans

- de telles circonstances les facteurs stylistiques l'emportent sur la contrainte aspectuelle et permettent une infraction. Il s'agit donc effectivement de structures moyennes dans des contextes événementiels. (p. 178)
- 19) Une deuxième explication que l'on pourrait avancer pour certains cas, comme [11] b [...] est que la proposition en question est en fait générique, malgré la forme verbale ponctuelle ou progressive. Pour [11] b, l'interprétation serait que quiconque a pris du café ce matin a dû le boire froid, le café froid étant la norme qui prévalait à ce moment-là. Sans doute cette lecture, qui comprend dans une certaine mesure une généralisation, est-elle tributaire de la série de propositions génériques qui précède. (id.)
- 20) Une troisième façon d'aborder le problème consiste à proposer que l'emploi événementiel des constructions en question, occasionné par les facteurs stylistiques déjà mentionnés et par d'autres facteurs de caractère stylistique ou pragmatique, provoque un changement d'interprétation. L'agentivité de la construction se voit annulée ou minimisée, de sorte que la construction devient neutre (ou se situe quelque part entre le moyen et le neutre) et ceci malgré le fait que l'action dénotée par le verbe exige la participation d'un agent. (id.)
- 21) [...] dans la mesure où l'on peut montrer que les énoncés (14 = La bataille *s'est livrée* hier soir.) et (15 = Les asperges *se vendent* cher (en ce moment)) ont une lecture agentive ; en effet, on peut y introduire un complément d'attitude (p.89)
- 22) [...] il est prudent de se rallier à la position de ZRIBI-HERTZ (1982) et de ne pas tenir les traits aspectuels pour des propriétés définitoires du tour médio-passif. La généricité d'énoncés comme (1 = Ça ne *se dit* pas intentionnellement.) et (10 = Les asperges *se cuisent* à feu doux.) provient essentiellement des caractéristiques temporelles du verbe et de la détermination nominale ; l'absence d'agent qui réduit l'ancrage de l'énoncé dans la situation y contribue également. (id.)
- 23) Le contraste entre le passif périphrastique et le tour médio-passif est maximal dans le cas de la lecture non événementielle. Dans l'autre cas, il est réduit, mais toujours perceptible. L'opposition de base entre procès en cours et procès perçu à partir de l'accompli subsiste en effet, comme il ressort de la paire suivante [...] L'énoncé (47 = Les principes sont connus depuis longtemps, mais l'application pratique ne *se fera* qu'au XIV^e siècle.) se situe dans une perspective prospective ; elle envisage l'application comme se déroulant ou comme envisageable dans l'avenir. La perspective rétrospective est par contre adoptée dans (48 = Les principes sont connus depuis longtemps, mais l'application pratique ne *sera faite* qu'au XIV^e siècle.) ; le point de vue du locuteur ne peut être que postérieur à l'application. (pp. 98-99)
- 24) Nous reconnaissons bien sûr que selon le contexte - cela dépend de plusieurs facteurs variés - il y a des interprétations moyenne, réfléchie ou neutre. (p. 317)
- 25) 「継続 (相)」との混同を防ぐためにも、「継続を表す」ではなく「反復を表す」とすべきである。
- 26) この例文番号は春木 (1994) でのものであり、本研究では (39) である。

- 27) 「知覚者」を指す。
- 28) Dans certains cas, la synonymie paraît parfaite entre un énoncé passif tronqué et un énoncé à pronom réfléchi clitique [...] Si cette synonymie semble plus fréquente avec des énoncés génériques, elle peut cependant être constatée également avec des énoncés ponctuels (cf. aussi ZRIBI-HERTZ1982b) et inclut même des énoncés à aspect accompli [...] (pp. 414-415)
- 29) Il est vrai que l'on pourrait souvent [...] sans rendre la phrase inacceptable, remplacer le verbe pronominal par un verbe au passif. Mais la nuance serait plus d'une fois différente : le fait serait présenté comme accompli, alors que, sous la forme pronominale, il apparaît comme en train de se réaliser.
- 30) persée.fr, *Études didactiques du FLE au Japon* (N° 1-25), 『Journée Pédagogique (フランス語教授法研究会) 報告』 (N° 1-29), *Revue Japonaise de didactique du Français* (N° 3-10), 『フランス語フランス文化研究』 (N° 1-21), 『フランス文化研究』 (N° 1-46), 『獨協大学外国語教育研究』 (N° 1-29), 『獨協大学外国語教育研究所紀要』 (N° 1-4)
- 31) フランス語母語話者が執筆したもの、或いはフランス語母語話者が共同執筆者に挙げられているもののみを分析対象とし、非フランス語母語話者のみが執筆したフランス語の文章は分析対象としていない。
- 32) 映画のシナリオも掲載されているため、話し言葉の実例もここから収集している。
- 33) 文法解説・練習問題の部分は分析対象としていない。
- 34) フランス語母語話者が執筆したもののみを分析対象とし、フランス語母語話者が共同執筆者に挙げられているものや非フランス語母語話者のみが執筆したフランス語の文章は分析対象としていない。
- 35) ポッドキャストの番組。番組後半のインタビュー部分のみを分析対象とし、番組前半の要約や文法解説・練習問題の部分は分析対象としていない。
- 36) 映画のシナリオ部分だけではなく、製作者等へのインタビュー部分も分析対象とした。
- 37) TV5MONDE 提供の番組。トランスクリプトをダウンロードができるものは全て分析対象とした。
- 38) 受動的用法と自動詞用法の区別はつきにくいため、この総数には自動詞用法の例文も含まれる。また、極稀に他の3用法の例文も含まれているため、受動的用法を含んだ例文のみの数ではない。
- 39) 迂言的受動文の意味で用いられる過去分詞と形容詞化した過去分詞の見分けはつかないため、ここでは便宜的に par と共に検索することで純粋な受動の意味を持つものを数え上げた。
- 40) 本研究に於ける受動的用法の選別は以下の流れによる。まず、受動・自動詞的用法と解釈できない他の3用法(再帰・相互・本質的用法)を除外する。次に、残った実例の中から自動詞的な解釈、或いは主語の自発性が少しでも感じられる動詞を排除する。つまり、se lever / se développer / s'améliorer 等のような、「主語自身が(例え無生物であっても)あたかも自ら自動詞的な行為を行う」ような動詞は排除している。

そして、s'organiser や s'écrire のような、(例えば表層で表現されなくても) 動作主による外部からの行為の影響を受けており、自動詞的な行為が想定できないものを受動的用法として選別している。

- 41) « <http://www.lexisnexis.com/ap/academic/?lang=ja> » Google を用いた検索では非標準的なフランス語も該当してしまうため、より信頼できる実例を得るためにこのサイトを利用した。
- 42) 今回は受動的用法の総数が 50 に満たないため、今回のパーセンテージは実例の総数(7 例)に対する出現率である。
- 43) 本例以降は断りがない限り全て LexisNexis® Academic からの出典である。
- 44) 直接的に colloque を organiser しておらず、共催や後援といった立場の存在もあるため、これ以降の「動作主」は一般的な狭義のそれよりも広い概念のものである。
- 45) 「～高校に於いて」や「ニームに於いて」といった物理的なものに限らず、「交渉に於いて」や「政治の場では」といった抽象的なものも含むため、本研究では敢えて「場」と称する。
- 46) 括弧に入った語句も計測し、エリジョンしている語句やトレデュニオンで繋がっている語句は 2 語として計測した。
- 47) 今回は受動的用法の総数が 50 例に満たないため、ここでのパーセンテージは実例の総数(9 例)に対する出現率である。
- 48) 今回は迂言的受動文の総数が 50 例に満たないため、ここでのパーセンテージは実例の総数(47 例)に対する出現率である。

参考文献一覧

- 荒井文雄 (1987) 「“Se-moyen” 構文の意味論」『フランス語学研究』21 (日本フランス語学会)、36-45.
- 朝倉季雄 (2002) 『新フランス文法事典』、白水社.
- 浅野幸生 (1996) 「受身の行為者表現に関する一考察」『人文論集』46-2 (静岡大学人文学部)、89-95.
- (1998a) 「受動的代名動詞の特徴」『人文論集』48-2 (静岡大学人文学部)、131-141.
- (1998b) 「他動性と言語形式 — 受動形と受動的代名動詞の比較を通じて」『フランス語学の諸問題Ⅱ』、三修社、80-88.
- (1999) 「選択の優先順位に関する検証 — 受動的表現の語用論的考察 —」『人文論集』50-2 (静岡大学人文学部)、117-126.
- (2001) 「代名動詞の中動態的性質について」『FLAMBEAU』27 (東京外国語大学フランス語研究室フランス研究会)、1-10.
- BOONS, J.-P., GUILLET, A. et LECLERE, C. (1976), *La structure des phrases simples en français*, Genève-Paris, Droz.
- CREISSELS, D. (1995), *Eléments de syntaxe générale*, Paris, Presses Universitaires de France.

- _____(2001), « Remarques sur la notion de passif et l'origine des constructions passives », *Linx [en ligne]* 45, 2-11.
- _____(2007), « Réflexivisation, transitivité et agent affecté », *L'énoncé réfléchi*, Rennes, Presses Universitaire de Rennes, 83-106.
- DELATOUR, Y., JENNEPIN, D., LEON-DUFOUR, M. et TEYSSIER, B. (2015¹³), *Nouvelle grammaire du français*, Paris, Hachette.
- FELLBAUM, C. et ZRIBI-HERTZ, A. (1989), « La construction moyenne en français et en anglais : étude de syntaxe et de sémantique comparées », *Recherches linguistiques de Vincennes* 18, 19-57.
- GAATONE, D. (2015²), *Le passif en français*, Sarrebruck, éditions universitaires européennes.
- GREVISSE, M. et GOOSSE, A. (2016¹⁶), *Le bon usage*, Louvain-la-Neuve, De Boeck Supérieur.
- 春木仁孝 (1987) 「フランス語の中立的代名動詞と非人称受身」『言語文化研究』13 (大阪大学大学院言語文化研究科)、63-83.
- _____(1994) 「中立的代名動詞と受動的代名動詞」『日仏語対照研究論集』(日仏語対照研究会)、32-52.
- _____(1996) 「現代フランス語の再帰構文再考——解釈の仕組みとモダリティー」『言語文化研究』22 (大阪大学大学院言語文化研究科)、171-193.
- _____(1997) 「意味カテゴリーとしての再帰——現代フランス語の場合——」『言語文化研究』23 (大阪大学大学院言語文化研究科)、177-200.
- _____(2002) 「フランス語の再帰構文 その認知的一体性」『シリーズ言語科学 2 認知言語学 I : 事象構造』、東京大学出版会、37-62.
- _____(2005) 「メトニミーと再帰構文」『フランス語学研究的の現在——木下教授寿寿記念論文集——』、白水社、97-113.
- _____(2007) 「フランス語の再帰構文受動用法におけるモダリティーについて」『言語における時空をめぐって』5 (大阪大学言語文化部：大阪大学大学院言語文化研究科)、31-40.
- _____(2008) 「事態の主観的把握について」『言語における時空をめぐって』6 (大阪大学言語文化部：大阪大学大学院言語文化研究科)、31-40.
- _____(2009a) 「フランス語の再帰構文受動用法の一体性について：モダリティーの観点から」『言語文化研究』35 (大阪大学大学院言語文化研究科)、119-140.
- _____(2009b) 「再帰構文について——フランス語、スペイン語、ドイツ語——」『フランス語学研究』43 (日本フランス語学会)、106-111.
- _____(2010a) 「現代フランス語の再帰構文受動用法——副詞的要素・潜在的動作主と意味解釈——」『言語文化研究』36 (大阪大学大学院言語文化研究科)、125-145.
- _____(2010b) 「英仏両言語における売買動詞と中間構文——中間構文と再帰構文受動用法の成立要因の違いについて——」『言語における時空をめぐって』8 (大阪大学言語文化部：大阪大学大学院言語文化研究科)、60-69.
- _____(2010c) 「フランス語再帰構文受動用法の諸相——モダリティーを中心に——」『日本独文学会研究叢書』73 (日本独文学会)、66-88.

- (2011)「フランス語の認知モードについて」『言語における時空をめぐる』9 (大阪大学言語文化部: 大阪大学大学院言語文化研究科)、61-70.
- (2012)「英仏両言語における中間構文の違いについて——認知モードの観点から——」『時空と認知の言語学』1 (大阪大学大学院言語文化研究科)、49-58.
- 林博司 (1984)「フランス語受動構文について」『論集』34 (神戸大学)、53-83.
- (2004)「フランス語における中間構文と代名動詞構文」『日本語の分析と言語類型——柴谷方良教授還暦記念論文集——』、くろしお出版、337-356.
- 井口容子 (1994)「フランス語の中動的代名動詞、中立的代名動詞と動詞の意味構造」『言語文化研究』20 (広島大学総合科学部)、163-176.
- (1995)「フランス語の再帰／非再帰形自動詞と非対格性」『言語文化研究』21 (広島大学総合科学部)、247-266.
- (1996)「フランス語の再帰構文と日本語の自発表現」『言語文化研究』22 (広島大学総合科学部)、193-213.
- (1998)「フランス語の再帰的代名動詞と中立的代名動詞」『Stella』17 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、49-64.
- (2001a)「イベント記述の性格をもつ受動的代名動詞」『広島大学フランス文学研究』20 (広島大学フランス文学研究会)、8-15.
- (2001b)「中相範疇としてのフランス語代名動詞」『言語文化研究』27 (広島大学総合科学部)、153-172.
- (2003a)『フランス語構文の分析』、駿河台出版社.
- (2003b)「事象叙述の性格の受動的代名動詞と状況補語」『Stella』22 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、35-43.
- (2004)「受動的代名動詞のモダリティと中相範疇機能拡張のメカニズム」『Stella』23 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、1-17.
- (2005)「受動的代名動詞再考——叙述の類型とアスペクト」『フランス文学』25 (日本フランス語フランス文学会)、1-11.
- (2006)「フランス語の代名動詞とバルト語派言語の完了受動再帰構文: 自発・可能・完了」『Stella』25 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、19-31.
- (2007a)「代名動詞の意味・機能的ネットワーク——自発、受動、非人称——」『フランス語学研究』41 (日本フランス語学会)、31-44.
- (2007b)「受動的代名動詞における未完了性と自発性」『Stella』26 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、49-58.
- (2008)「知覚動詞・認知動詞の代名動詞」『Stella』27 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、113-123.
- (2009)「中立的代名動詞再考」『Stella』28 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、53-66.
- (2010)「フランス語の受動的代名動詞と中間構文」『Stella』29 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、67-77.
- (2011)「フランス語受動的再帰構文の意味構造」『Stella』30 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、55-62.

- (2012a) 「中間構文における任意動作主と未完了アスペクト」『Stella』31 (九州大学フランス語フランス文学研究会)、1-9.
- (2012b) 「中間構文と総称的受動文」『川口順二教授退任記念論集』(慶應義塾大学)、39-44.
- 磯邊香奈江 (2011) 「現代フランス語における代名動詞の中立的用法について」『獨協大学大学院外国語学研究科修士論文フランス語学専攻』(獨協大学大学院外国語学研究科)
- 倉方秀憲 他 (2010⁴) 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社.
- LAMIROY, B. (1993), « Pourquoi il y a deux passifs », *Langages* 27, 53-72.
- LYONS, C. (1989), « L'aspect générique et la voix moyenne », *Travaux de linguistique* 19, 171-186.
- 町田健 (2015) 『フランス語文法総解説』、研究社.
- 松田孝江 (1991) 「現代フランス語における代名動詞について」『大妻女子大学紀要 文系』23 (大妻女子大学)、13-27.
- 松田孝江 (1994) 「現代フランス語における代名動詞について (Ⅱ) — 無情物主語の構文を中心に —」、『大妻女子大学紀要 文系』26 (大妻女子大学)、9-23.
- 松田孝江 (2005) 「フランス語における受動態について」、『大妻女子大学紀要 文系』37 (大妻女子大学)、59-66.
- 松本卓也 (2014) 「新聞での実例を基にした現代フランス語における受動的代名動詞の完了相の考察」『フランス語フランス文化研究』20 (獨協大学大学院外国語学研究科)、1-19.
- 目黒士門 (2015²) 『現代フランス広文典』、白水社.
- MELIS, L. (1990), *La voie pronominale*, Paris, Duculot.
- 小熊和郎 (1985) 「代名動詞」『フランス語学の諸問題 I』、三修社、74-87.
- PINCHON, J. (1977), « Remarques sur le passif », *Français dans le monde* 130 (45-47), 131 (54-56), 132 (51-53).
- (1986), *Morphosyntaxe du français, étude de cas*, Paris, Hachette.
- RUWET, N. (1972), *Théorie syntaxique et syntaxe du français*, Paris, Seuil.
- STEFANINI, J. (1971), « À propos des verbes pronominaux », *Langue française* 11, 110-125.
- TOGEBY, K. (1983), *Grammaire française Volume 3 : Les formes impersonnelles du verbe et la construction des verbes*, Copenhagen, études Romanes de l'Université de Copenhague.
- 山田博志 (1988) 「現代フランス語における「中動構文」について (1)」『言語文化論集』26 (筑波大学)、101-110.
- (1989) 「現代フランス語における「中動構文」について (2)」『言語文化論集』28 (筑波大学)、69-80.
- (1997) 「中間構文について ~ フランス語を中心に ~」『ヴォイスに関する比較言語学的研究』、三修社、98-131.
- YAMADA, H. (2002), « Sur les deux types de la construction du verbe pronominal passif - la valeur normative de la restriction sur les éléments adverbiaux », *Études de langue et littérature françaises* 80 (日本フランス語フランス文学会)、208-221.

- _____ (2009), « Sur la valeur modale de la construction du verbe pronominal passif », *Études de langue et littérature françaises* 95 (日本フランス語フランス文学会), 1-14.
- 山田博志 (2013) 「代名動詞受動的用法」『フランス語学の諸問題Ⅳ』、三修社、109-124.
- ZRIBI-HERTZ, A. (1978), « économisons-nous : A Propos d'une Classe de Formes Réflexives Métonymique en Français », *Langue française* 39, 104-127.
- _____ (1982), « La construction «se-moyen» du français et son statut dans le triangle : moyen-passif-réfléchi », *Linguisticæ Investigationes* 6-2, 345-401.
- _____ (1987), « La réflexivité ergative en français moderne », *Le français moderne* 55, 23-54.

引用文献一覧【単行本・論文】

- BOULANGER, J. -C. (2003), *Les inventeurs de dictionnaires*, Ottawa, Les Presses de l'Université d'Ottawa.
- CHENG, F. (1982), « Perspectives comparatistes : représentations cosmologiques et pratiques signifiantes dans la tradition chinoise », *Extrême-Orient* 1, 19-30.
- MICHELIN (1976²), *Paris et sa banlieue*, Paris, Pneu Michelin.
- TRISTAN, F. (1974), *Le dieu des mouches*, Paris, Christian Bourgois éditeur.

引用文献一覧【紀要・雑誌】

- L'Avant-Scène Cinéma*, Paris : L'Avant-Scène. ※本文中では「ASC」と表記。
- 獨協大学フランス語教授法研究会報告. ※本文中では「JP」と表記。
- Études didactiques du FLE au Japon*. ※本文中では「EDFJ」と表記。
- フランス語フランス文化研究. ※本文中では「仏語仏文化」と表記。
- Revue japonaise de didactique du français*. ※本文中では「RJDF」と表記。